YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TMAX

モーターサイクル

TMAX560 Tech (XP560D)

B3T-28199-J1

安全運転のために 1
各部の名称 2
スマートキーシステム 3
車両の特徴 4
各部の取り扱いと操作 5
日常点検 6
運転操作 7
点検整備 8
お車の手入れ 9
製品仕様 10
ユーザー情報 11
索引 12

JAU27264

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

スマートキーシステム 3-1
- スマートキーシステムの概要 3-1
- スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い 3-2
- スマートキー操作のしかた 3-3
- スマートキーの電池交換のしかた 3-4
- スマートキーシステムの作動範囲 3-5
- ハンドルロック解除と車両の電源 ON 3-6
- 車両の電源 OFF 3-7
- ハンドルロックのかけかた 3-8
- メインスタンドロックのかけかた 3-9
- シートや各リッドの開閉 3-9
- パーキングモード 3-11

車両の特徴 4-1
- クルーズコントロールシステム 4-1
- D-mode（ドライブモード） 4-3
- トラクションコントロールシステム 4-3

各部の取り扱いと操作 5-1
- ハンドルスイッチ 5-1
- 警告灯と表示灯 5-3
- スピードメーター 5-4
- タコメーター 5-4
- マルチファンクションディスプレイ 5-5
- 盗難警報器（別売アクセサリー） 5-16
- リヤブレーキロックレバー 5-16
- ABS 5-16
- フューエルタンクキャップ 5-17
- 燃料 5-18
- トランク 5-19
- バックミラー 5-20
- リヤクッションの調整 5-20
- ブレーキレバーの握り調整 5-22
- スタンディングハンドル 5-22
- DC ジャック 5-23
- サイドスタンド 5-23
- イグニッションサーキットカットオフシステム 5-24

日常点検 6-1
- 日常点検の実施 6-1
- 日常点検箇所／点検内容 6-1

運転操作 7-1
- ならし運転 7-1
- エンジン始動 7-1
- 発進 7-2
- 加速と減速 7-3
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- サービスツール 8-2
- カバーの取り外し、取り付け 8-2
- エンジンオイル 8-4
- エンジンのかかり具合、異音の点検 8-5
- 低速、加速の状態の点検 8-6
- 冷却水 8-6
- エアクリーナーエレメントの交換 8-8
- タイヤ 8-9
- ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検 8-10
- リヤブレーキロックのきき具合 8-11
- ブレーキパッドの点検 8-11
- ブレーキ液量の点検 8-11
- ドライブベルト 8-12
- 車体各部の給油脂状態の点検 8-13
- バッテリー 8-13
- ヒューズ交換 8-14
- 灯火装置および方向指示灯の点検 8-17
- 運行において異常が認められた箇所の点検 8-17
- こんなときは 8-18
- スマートキーシステムのエマージェンシーモード 8-20

お車の手入れ 9-1
- 洗車 9-1
- キャストホイールの取り扱い 9-2

ウインドシールドの取り扱い.....9-2
保管のしかた.....9-3
アフターケア用品について 9-3

製品仕様.....10-1

ユーザー情報.....11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....11-2
車両情報 11-2

索引.....12-1

安全運転のために

1

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU67231

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

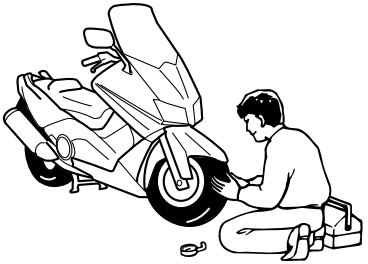
JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



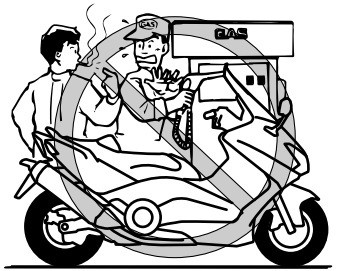
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検･整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

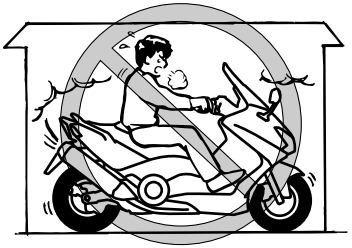
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



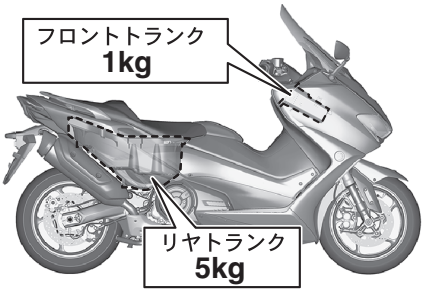
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



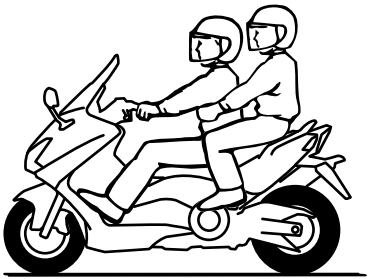
荷物を積むときは



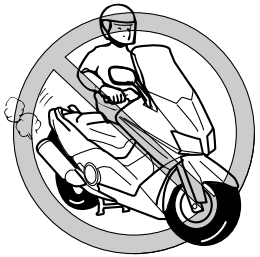
- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

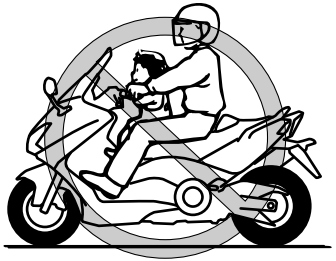
- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



押して移動するときはエンジンを止める
車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。
やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。
スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。



乗車定員は 2 名
ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は法令により 2 人乗りはできません。
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。
タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

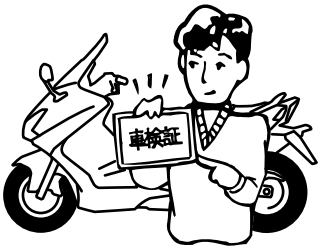
自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

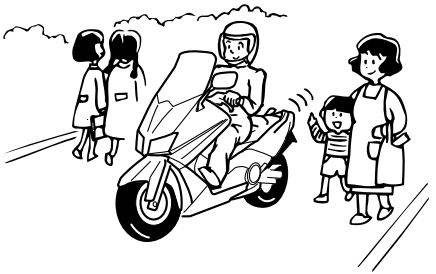


JAU66240

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



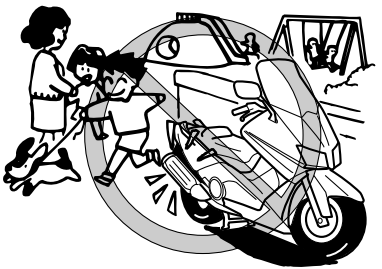
駐車

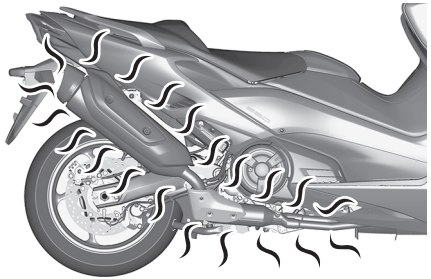
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、スマートキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

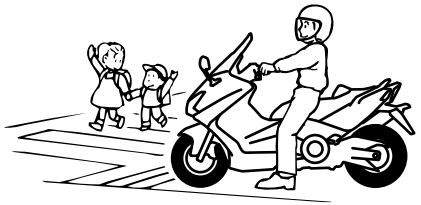




昼間はヘッドライトを下向きに
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27651
環境・住民の方との調和のために

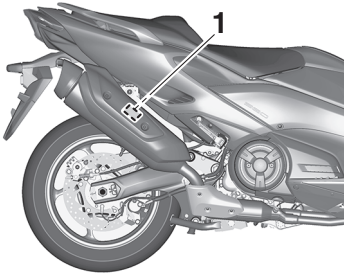
住民の方への思いやり
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



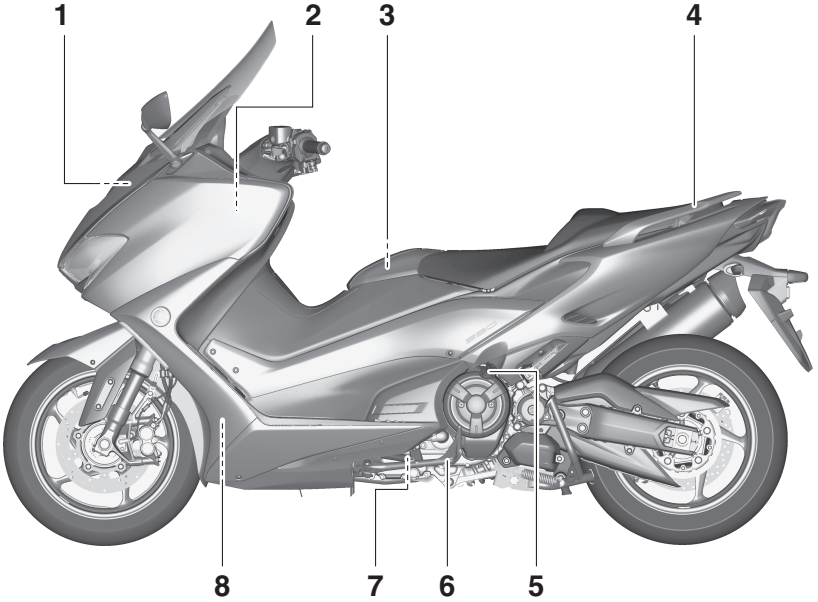
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

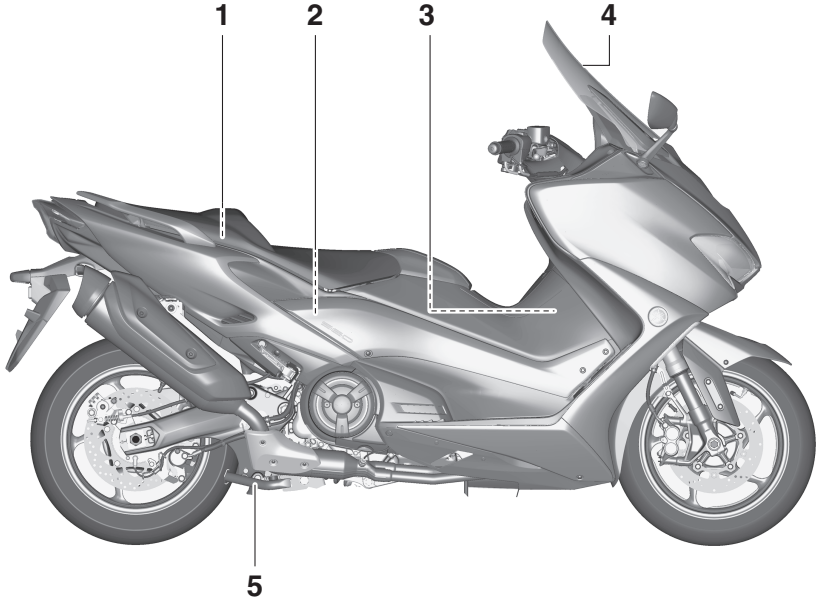
左側面



1. ヒューズ（P8-14）
2. バッテリー（P8-13）
3. フューエルタンクキャップ（P5-17）
4. スタンディングハンドル（P5-22/P7-2）
5. オイル注入口（P8-4）
6. サイドスタンド（P5-23）
7. エンジンオイル点検窓（P8-4）
8. 冷却水点検窓 （P8-6）

JAU10421

右側面



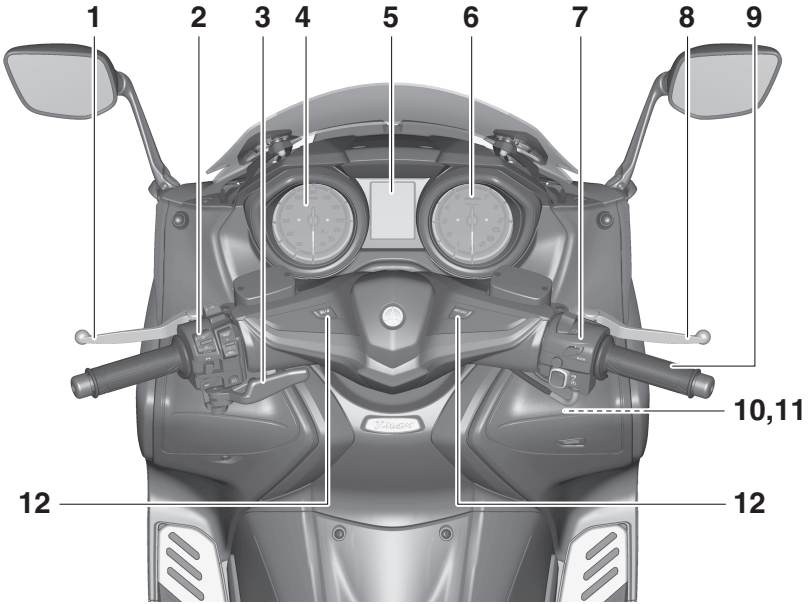
1. サービスツール（P8-2）
2. リヤトランク（P5-19）
3. エアクリーナーエレメント（P 8-8）
4. ウインドシールド
5. メインスタンド

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

2



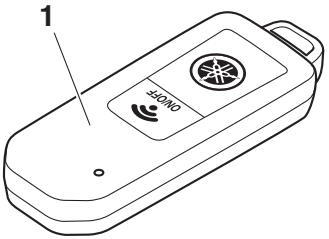
1. リヤブレーキレバー（P8-10）
2. ハンドルスイッチ（左）（P5-1）
3. リヤブレーキロックレバー （P5-16/P8-11）
4. スピードメーター（P5-4）
5. マルチファンクションディスプレイ（P5-5）
6. タコメーター（P5-4）
7. ハンドルスイッチ（右）（P5-1）
8. フロントブレーキレバー（P8-10）
9. スロットルグリップ（P7-3）
10. フロントトランク（P5-19）
11. DC ジャック (P5-23)
12. スマートキーシステムスイッチ (P3-1)

JAU77202

スマートキーシステムの概要

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。

- 電源の ON/OFF
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除 / 施錠
- シートロックの解除
- トランクロックの解除



1. スマートキー

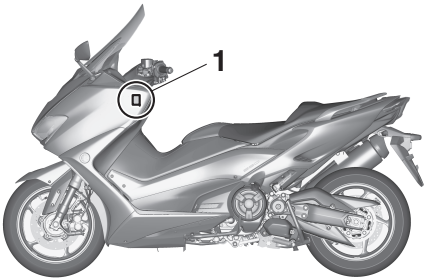
要　点

- 長期間使用しなかったとき、またはバッテリーを取り外して再接続したときなど、車両の電源を ON にしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源が OFF になることがあります。このようなときは、再度車両の電源を ON にしてからエンジンを始動してください。
- 最後に車を使用してから（車両の電源を ON から OFF にしてから）約 1 週間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。この状態のとき電源を ON にすると、エンジンを始動する前にシステムの関係から、自動的に電源が OFF になります。このようなときは、再度車両の電源を ON にすると、エンジンを始動することができます。

JWA21070

⚠ 警 告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、フロントトランクの前側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

JCA15764

注 意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源の ON などができないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**
- **スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。**
- **スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。**
- **スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。**
- **近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。**

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときはメカニカルキーを使用して、エマージェンシーモード（8-20 ページ参照）の操作を行ってください。

JAU61647

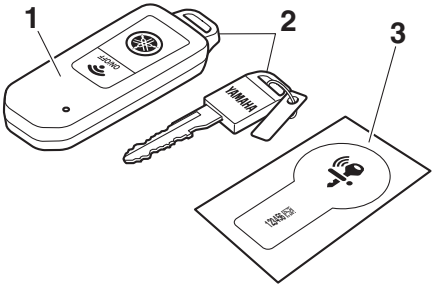
スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

JWA17952

⚠警 告

- **スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。**
- **スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロックの解除、ハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。**

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個（組み込まれたメカニカルキー 1 本を含む）、メカニカルキー 1 本、ID 番号カード 1 枚が付属しています。メカニカルキーと ID 番号カードは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID 番号カードの紛失に備えて、**ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。**



1. スマートキー
2. メカニカルキー
3. ID 番号カード

- スマートキーと ID 番号カード（ID 番号の控えを含む）を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- 緊急時にはスマートキーの ID 番号（6 桁数字）を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JCA15771

注 意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

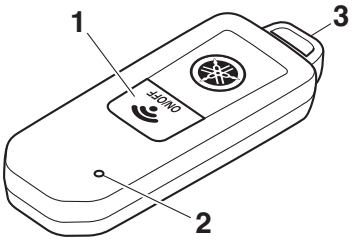
● 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
● 水に濡らさないでください。
● 重いものを上に置かないでください。
● 直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。
● 火であぶったりしないでください。
● 削ったり、穴を開けたりしないでください。
● 超音波洗浄器などで洗浄しないでください。
● 磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。
● テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
● 低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。
● ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。
● シールを貼らないでください。

要　点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。（全く使用しなくても電池は消耗します。）
- 車両の電源を ON にした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅（約 20 秒）した場合は、新しい電池に交換してください。（電池交換のしかたは、3-4 ページ参照）
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。（例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき）
- スマートキーのロック／アンロックスイッチを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大 6 個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

JAU77223

スマートキー操作のしかた



1. ロック／アンロックスイッチ “ON/OFF”
2. スマートキー表示ランプ
3. メカニカルキー

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。
スマートキーのロック／アンロックスイッチ “ON/OFF” を長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）
- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロックを確認する

スマートキーのロック／アンロックスイッチ “ON/OFF” を短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・アンロックになっています。
- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・ロックになっています。

メカニカルキーを使用するとき

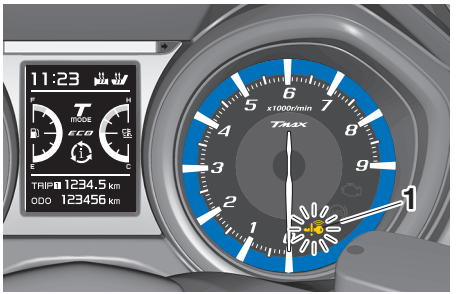
メカニカルキーをスマートキー本体から引き抜きます。使用後はメカニカルキーを元の位置へ押し戻します。

JAU83351

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているので、新しい電池と交換してください。

- 車両の電源を ON にしたときに、スマートキーシステム表示灯が約 20 秒間点滅するとき。
- スマートキーの “ON/OFF” スイッチを押しても作動しないとき。



1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

JWA14724

警 告

- **電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受けるおそれがあります。電池および取り外した部品を、子供の手が届くところに置かないでください。**
- **電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。**

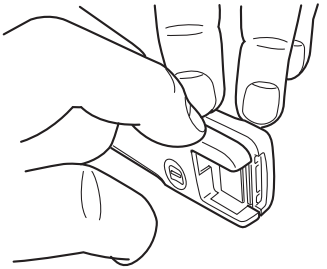
JCA24011

注 意

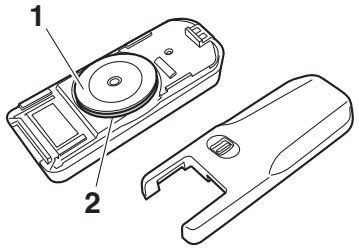
- **電池交換の際、スマートキー本体に無理な力を加えないでください。**
- **キーを開けるときは、ドライバーや硬いものでこじ開けないでください。**
- **防水シール部分の傷つきや、汚損に注意してください。**
- **内部の回路や端子に触れないでください。故障の原因となります。**
- **電池が正しく取り付けられているか確認してください。電池の＋極の向きが合っているか確認してください。**

電池交換のしかた

1. スマートキーのケースを開けます。



2. カバーと O リングを取り外します。



1. カバー
2. O リング

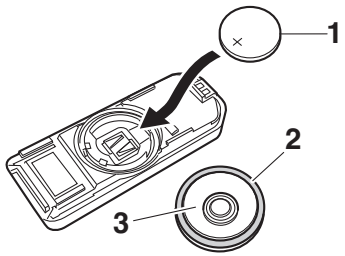
3. 電池を取り外します。

要　点

取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。

4. 電池を新しいものと交換します。電池の取り付け方向（表裏）に注意してください。

使用電池：
ボタン電池　CR2025×1 個



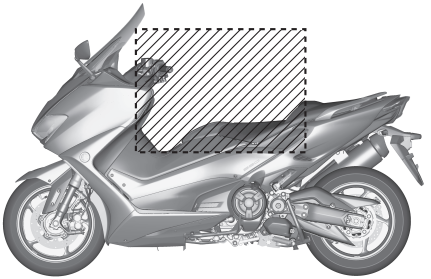
1. 電池
2. O リング
3. カバー

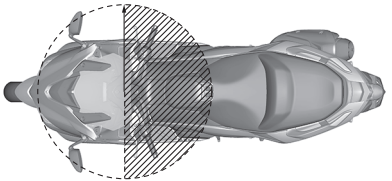
5. O リングとカバーを取り付けます。
6. スマートキーのケースを閉じます。

JAU77214

スマートキーシステムの作動範囲

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、ハンドルの中心より半径約 80cm です。





要　点

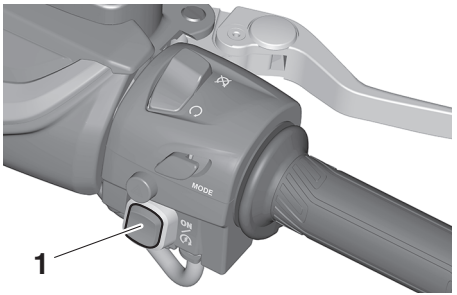
- スマートキーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が広くなったり狭くなったりすることがあります。

- スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- スマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- スマートキーの持ち方により、作動しにくいことがあります。
- スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーシステムが作動しない場合は、スマートキーのロック／アンロック状態を確認してください。
- 車とスマートキーが通信できない状態で“ON/㋮”スイッチ、“OFF/LOCK”スイッチ、“🔒/🔓”スイッチを連続操作したときは、盗難やいたずら目的の操作とみなし、一定の時間が経過するまで各スイッチの操作を受け付けなくなります。
- リヤトランク内やフロントトランク内は、スマートキーの作動範囲外となる場合があります。また、リヤトランク内やフロントトランク内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキーシステムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーを車に置き忘れると、車両盗難につながるおそれがあります。車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックを掛け、スマートキーを持って離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

JAU77233

ハンドルロック解除と車両の電源ON

1. アンロックの状態にしたスマートキーを持って、車に近づき、“ON/㋮”スイッチを短押しします。



1. “ON/㋮”スイッチ

2. スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴り、メーターのスマートキーシステム表示灯が短く点灯します。全てのロックが自動的に解除されます。

要　点

- ハンドルに力が加わっているときなど、ハンドルロックが引っ掛かって自動解除できない場合は、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅します。このようなときは、ハンドルを左右に少し動かしてみてください。その後もう一度、“ON/㋮”スイッチを押します。

- ハンドルロックの自動解除ができない状態が続くと、スマートキーシステム表示灯がゆっくり点滅します。このとき、ハンドルロックは正常に解除されていない状態になり、電源は ON になりません。この状態から電源を ON にするには、ハンドルを少し左右に切ってロックを解除したあと、“ON/㋮” スイッチを押します。
- メインスタンドロックの自動解除ができないときも、スマートキーシステム表示灯が点滅します。車両を前後に少しゆすってみた後、“ON/㋮”スイッチを再度押します。
- メインスタンドロックの自動解除ができない状態が続くと、スマートキーシステム表示灯がゆっくり点滅します。車両を前後に少しゆすってみてメインスタンドロックを解除できるようにした後、“ON/㋮” スイッチを押します。

JCA15826

注 意

ハンドルロックまたはメインスタンドロックが解除されず、スマートキーシステム表示灯が点滅をしている場合は、スマートキーシステムの故障が考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

3. 全てのロックが解除されると、車両の電源が ON になり、マルチファンクションディスプレイが点灯します。
4. エンジンを始動できます。（7-1 ページを参照）

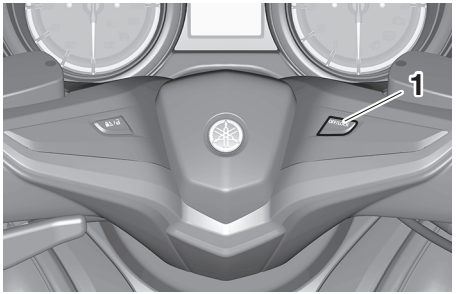
要 点

スマートキーが無い状態で電源を ON にする操作については、8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAU78033

車両の電源 OFF

車両の電源をOFFにしてエンジンを停止するには、“OFF/LOCK” スイッチを押します。



1. “OFF/LOCK” スイッチ

スマートキーが認証されると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴り、車両の電源が OFF になったことをお知らせします。トランクやフューエルタンクキャップリッドのロックが解除されます。

要 点

- 車両の電源を OFF する操作は、必ず運転者自身の手で行い、電源が OFF になったことを確認してください。
- スマートキーを持った運転者がスマートキーシステムの作動範囲外に移動しても、車両の電源は自動的に OFF にはなりません。

- 走行中は、“OFF/LOCK” スイッチで車両の電源をOFFにする操作を行うことができません。電源を OFF にする操作を行うときは、必ず車を安全な場所に停車して行ってください。

“OFF/LOCK” スイッチを押して車両の電源を OFF にする操作時に作動範囲内にスマートキーがないと、車の電源は OFF にならずにアラームが 3 秒鳴り続け、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅して異常を知らせます。スマートキーの所在や状態を確認してください。

要　点

スマートキーが無くても、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅している間に、“OFF/LOCK” スイッチを押してもう一度電源 OFF の操作を行えば、電源の OFF は可能です。

自動ロック機能

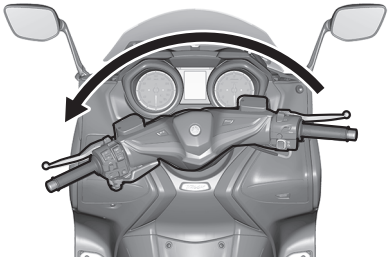
“OFF/LOCK” スイッチを用いてエンジンを停止した後、および車両の電源が ON から OFF になった時はいつでも、全てのトランクロックとフューエルタンクキャップリッドのロックが解除されます。約 60 秒後、それらのロックが自動的にかかります。

“🔒/🔓” スイッチでロックを解除したときは、約 10 秒後、全てのロックが自動的にかかります。

JAU80002

ハンドルロックのかけかた

車両の電源を OFF にし、ハンドルを左へいっぱいに切った状態で “OFF/LOCK” スイッチを短押しします。



要　点

- 正常にハンドルロックがかかると、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります）を行います。
- ハンドルロックが正しくかからない場合、アラームが 3 秒鳴り続け、キー表示灯が点滅します。ハンドルロックのロックバーが突き当たっていることがありますので、ハンドルを左へいっぱいに切った状態で “OFF/LOCK” をもう一度押し、ハンドルロックを試みてください。

JWA14742

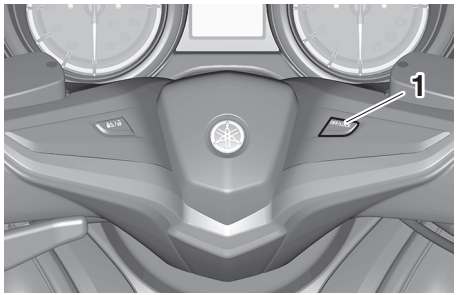
⚠ 警 告

車が動いている状態では、ハンドルロック操作をしないでください。

JAU78052

メインスタンドロックのかけかた

車両を平坦で安定する場所に停車させてメインスタンドを立て、“OFF/LOCK” スイッチを長押し（1 秒以上）します。



1. “OFF/LOCK” スイッチ

要　点

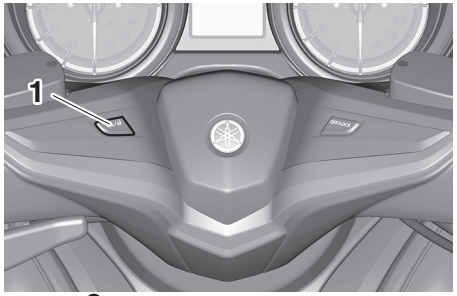
- 正常にメインスタンドロックがかかると、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります）を行います。
- メインスタンドロックが正しくかからない場合、アラームが 3 秒鳴り続け、キー表示灯が点滅します。車両を前後に少しゆすってみた後、“OFF/LOCK” スイッチを再度押します。

JAU81291

シートや各リッドの開閉

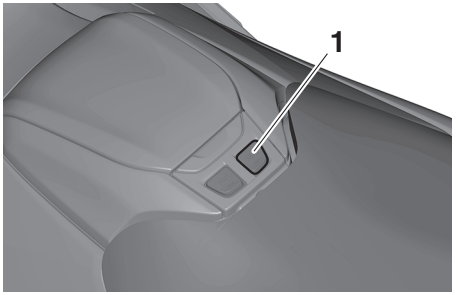
シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. “🔒/🔓” スイッチを短押しします。スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴ります。



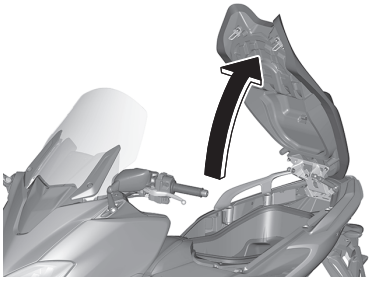
1. “🔒/🔓” スイッチ

3. “SEAT” ボタンを押して、シートのロックを解除します。



1. “SEAT” ボタン

4. シートの前方を持ち上げて開けます。



シートの閉めかた

シートを下ろし、シートの着座部分を押さえてロックします。

要　点

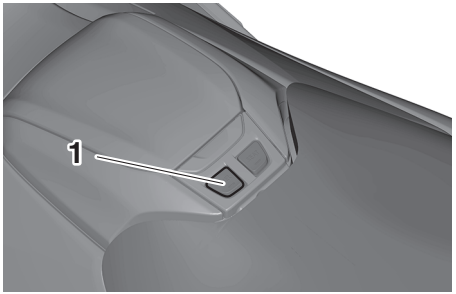
- 発進前に、シートが確実にロックされているか確認してください。

スマートキーシステム

● 緊急時には、メカニカルキーでシートを開けることができます。(8-20 ページを参照)

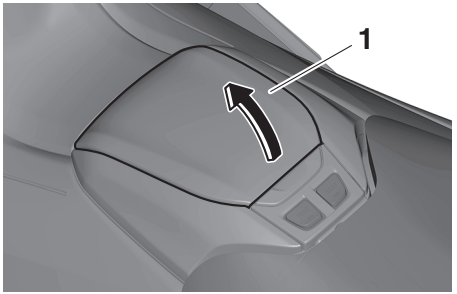
フューエルタンクキャップリッドの開けかた

1. “🔒/🔓” スイッチを短押しします。スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴ります。
2. “FUEL” ボタンを押します。



1. “FUEL” ボタン

3. 図のようにリッドを開けます。



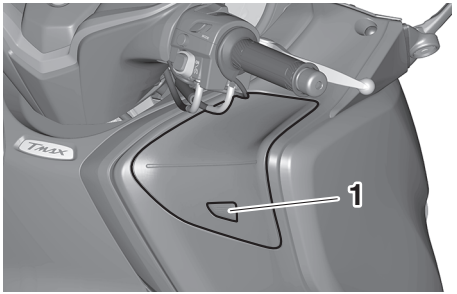
1. フューエルタンクキャップリッド

フューエルタンクキャップリッドの閉めかた

リッドを押して、元の位置まで戻します。

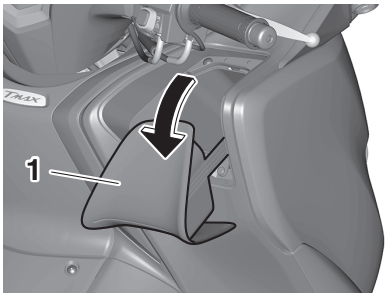
フロントトランクリッドの開けかた

1. “🔒/🔓” スイッチを短押しします。スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴ります。
2. フロントトランクリッド中央部のボタンを押します。



1. ボタン

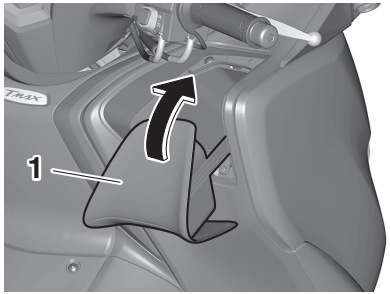
3. 図のようにフロントトランクが開きます。



1. リッド

フロントトランクリッドの閉めかた

リッドを押して、元の位置まで戻します。



1. リッド

JAU80842

パーキングモード

ハンドルがロックされ、ハザードランプと方向指示灯を点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。

パーキングモードの使いかた

1. ハンドルをロックします。(3-8 ページを参照)

要　点

ハンドルロックが受け付けられないと、アラームが 3 秒鳴り続けてキー表示灯が点滅し、車両をパーキングモードに入れることができません。

2. “🔒/🔓” スイッチを長押し（1 秒以上）します。
3. スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが2回鳴ってパーキングモードになり、メーターのスマートキーシステム表示灯が点灯します。

要　点

パーキングモード使用中は、シート・フューエルタンクキャップリッド・フロントトランクの開閉はできません。

JCA20760

注 意

ハザードランプおよび方向指示灯の長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

パーキングモードの解除のしかた

“🔒/🔓” スイッチを押します。スマートキーが認証されると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴ってパーキングモードが解除され、メーターのスマートキーシステム表示灯が消灯します。

JAU78251

クルーズコントロールシステム

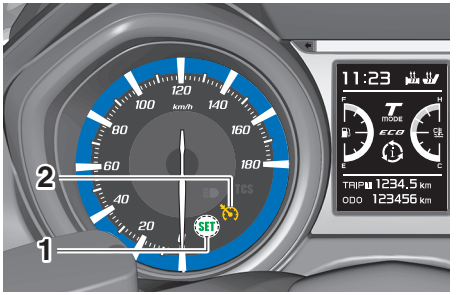
この車は、一定のスピードを維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。法定速度を守って走行してください。

クルーズコントロールシステムは、約 50 km/h ～ 140 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

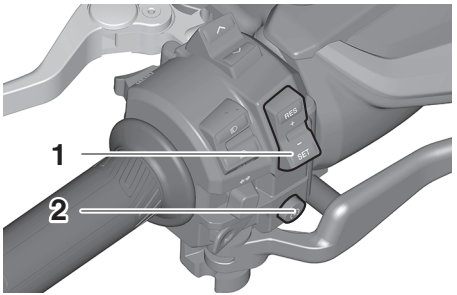
JWA21050

⚠ 警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯“ ”が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “ ”



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+/SET–”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “ ”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール電源スイッチ “ ” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が点灯します。
2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要 点

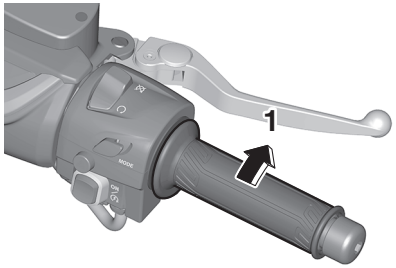
設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側または “SET–” 側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの “SET–” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押します。走行スピードが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

JWA16351

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要　点

システムの作動中に電源スイッチを押したり、車両の電源を OFF にすると、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- エンジントラブルが発生した場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” は 4 秒間点滅してから消灯します。

クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調節することはできません。スピードを落とすにはブレーキ操作が必要ですが、ブレーキをかけるとクルーズコントロールシステムは停止します。

JAU77272

D-mode （ドライブモード）

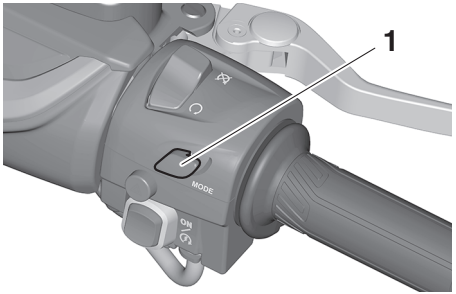
D-mode は電子制御により、2 つの走行モード（ツーリングモード “T” ／スポーツモード “S”）を選択できるシステムです。

JWA15341

⚠ 警 告

走行中はドライブモードスイッチを操作しないでください。

スロットルグリップを閉じ、ドライブモードスイッチ “MODE” を押して “S”（スポーツ）・“T”（ツーリング）の各モードを切り替えます。



1. ドライブモードスイッチ “MODE”

要 点

- 選択されたドライブモードは、ドライブモードディスプレイに表示されます（5-6 ページを参照）
- 選択されたドライブモードは、車両の電源が OFF になっても記憶されます。

要 点

クルーズコントロールが有効になっているときは、ドライブモードを切り替えることができません。

ツーリングモード “T”

ツーリングモード “T” は、さまざまな走行条件に適したモードです。
低速から高速にいたるまで、スムーズな乗り心地を楽しめます。

スポーツモード “S”

低速域から中速域にかけて、ツーリングモードよりもスポーティなエンジンレスポンスを発揮します。

JAU88851

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステム（TCS）は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムにより、スリップ状態が回復するまでエンジン出力を制御します。
トラクションコントロールが有効になると、“TCS” 表示灯が点滅します。

JWA15433

⚠ 警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

トラクションコントロールシステムの設定



1. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

車両の電源が ON になると、トラクションコントロールも自動的に ON になります。
トラクションコントロールシステムをOFFにするには、5-10 ページを参照してください。

要　点

- 車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムを OFF にすると、抜け出しやすくなる場合があります。
- メインスタンドがかかっている場合は、過剰にエンジンを回転させないでください。トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になり、リセット操作が必要になります。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(8-9 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

トラクションコントロールシステムは、センサーの故障が検知されたとき、片方の車輪のみが回転したときなどに、自動的に OFF になります。この場合、“TCS” 表示灯が点灯します。
トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になった場合は、通常走行することでリセットされます。

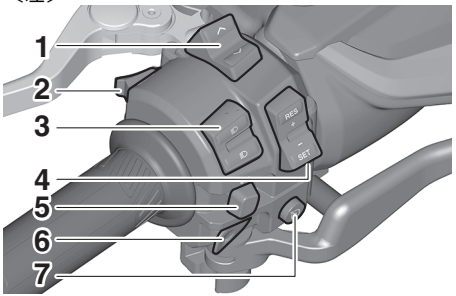
要　点

“TCS” 表示灯が点灯したままの場合は、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JAU66055

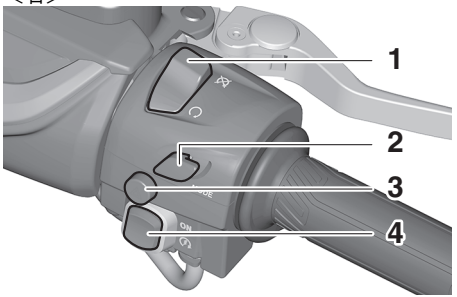
ハンドルスイッチ

＜左＞



1. セレクトスイッチ “ / ”
2. メニュースイッチ “MENU”
3. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “ / /PASS”
4. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+/SET–”
5. 方向指示器スイッチ “ / ”
6. ホーンスイッチ “ ”
7. クルーズコントロール電源スイッチ “ ”

＜右＞



1. エンジンストップスイッチ “ / ”
2. ドライブモードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “ ”
4. 車両の電源 ON ／スタータースイッチ “ON/ ”

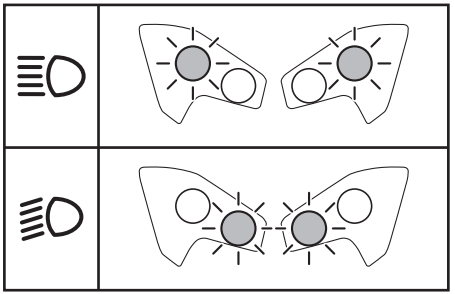
JAU54203

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “ / /PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

（上向き）：遠くを照らします。

（下向き）：近くを照らします。



ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ “ / ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

：右側の方向指示灯が点滅します。

：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ “🔊”
スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU77450

エンジンストップスイッチ “⏾/⊗”
エンジン始動前に、このスイッチを “⏾” にします。
転倒した場合やスロットルケーブルが動かない場合などの非常時には、このスイッチを “⊗” にしてエンジンを停止します。

JAU77291

車両の電源 ON ／スタータースイッチ “ON/⏻”
アンロックの状態にしたスマートキーを持って車に近づき、このスイッチを短押しすると車両の電源が ON になります。その後、サイドスタンドをはね上げ、前後のブレーキをかけた状態で、このスイッチを押してエンジンを始動させます。
エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU79601

ハザードスイッチ “⚠”
車両の電源が ON の状態かパーキングモードのときに、このスイッチを用いてハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が同時に点滅します）。
ハザードランプは、緊急時や事故の可能性がある場面で停車するときなど、他の運転者に警告を促すために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU73952

クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロールシステムの説明については、4-1 ページを参照してください。

JAU77301

メニュースイッチ “MENU”
このスイッチは、マルチファンクションディスプレイにおいて、各種設定を変更するのに使用します。（5-5 ページ参照）

JAU77311

セレクトスイッチ “∧/∨”
このスイッチは、マルチファンクションディスプレイにおいて、各種設定を変更するのに使用します。（5-5 ページ参照）

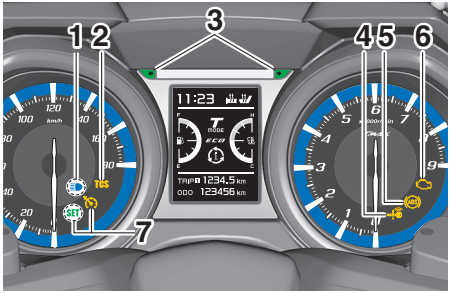
JAU73931

ドライブモードスイッチ “MODE”
ドライブモードの説明や設定については、4-3 ページを参照してください。

5

JAU4939P

警告灯と表示灯



1. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
2. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
3. 方向指示器表示灯 “ ” / “ ”
4. スマートキーシステム表示灯 “ ”
5. ABS 警告灯 “ ”
6. エンジン警告灯 “ ”
7. クルーズコントロール表示灯 “ ” / “SET”

JAU88680

方向指示器表示灯 “ ”/“ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88690

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU77551

クルーズコントロール表示灯 “ ” / “SET”

これらの表示灯の詳細は、4-1 ページを参照ください。

JAU89430

エンジン警告灯 “ ”

エンジンや車両の制御システムに異常が発生すると、この警告灯が点灯します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU77075

ABS 警告灯 “ ”

ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。(5-16 ページ参照)

通常、車両の電源がオンになると ABS 警告灯が点灯し、時速 10 km/h 以上で走行すると消灯します。

次のような場合、ABS が正しく機能しない可能性があります。

- 車両の電源がオンになっても、警告灯が点灯しない場合
- 時速 10 km/h 以上で走行しても、警告灯が消灯しない場合
- 乗車中に、警告灯が点灯もしくは点滅した場合

これらのいずれかの場合は、速やかにヤマハ販売店で点検を受けてください。

JWA16043

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

要　点

メインスタンドを立てた状態でエンジンをかけると、ABS 警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU88700

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、OFF になると点灯します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU78083

スマートキーシステム表示灯 “ ”

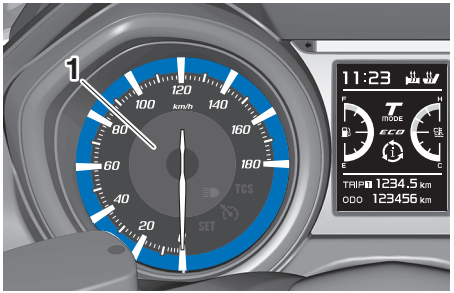
車両とスマートキーとの通信が確立しているとき、またスマートキーに関連する操作が行われたとき、この表示灯が点滅します。
スマートキーシステムにエラーが発生したときも、表示灯が点滅します。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や消灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU77131

スピードメーター

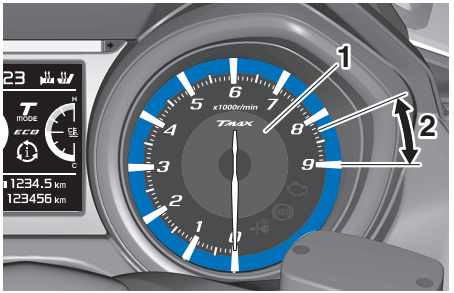


1. スピードメーター

車の速度を示します。
車両の電源がONになると、電気回路のチェックのため、指針が一旦最大値まで動き、ゼロに戻ります。

JAU77141

タコメーター



1. タコメーター
2. 高回転ゾーン

毎分のエンジン回転数（r/min）を示します。
車両の電源がONになると、電気回路のチェックのため、指針が一旦最大値まで動き、ゼロに戻ります。

JCAM1150

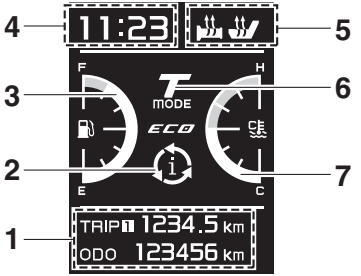
注　意

エンジン回転数が高回転ゾーンに入らないように運転してください。
高回転ゾーン : 8250 r/min 以上

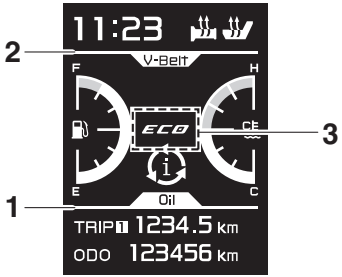
5

JAU91510

マルチファンクションディスプレイ



1. 情報ディスプレイ
2. 機能ディスプレイ
3. 燃料計
4. 時計
5. グリップウォーマー・シートヒーターアイコン
6. ドライブモード表示
7. 水温計



1. エンジンオイル交換表示 “Oil”
2. V ベルト交換表示 “V-Belt”
3. エコ表示

JWA12313

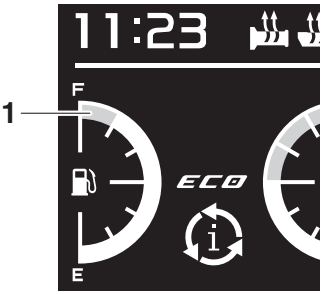
⚠警 告

マルチファンクションディスプレイの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要 点

一部の表示項目は、メニューモードからも調整できます。（5-10 ページ参照）

燃料計



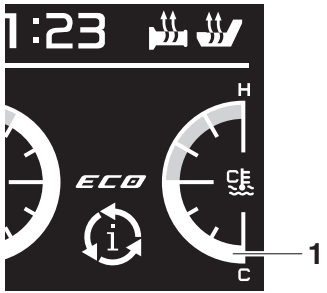
1. 燃料計

フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが “F”（full）から “E”（empty）に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

要 点

燃料計の電気回路に異常が見つかると、燃料計が繰り返し点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

水温計



1. 水温計

冷却水の温度は、天候やエンジン負荷によって変化します。最上部のセグメントが点滅を始めると、情報ディスプレイが自動的に “C-TEMP” に切り替わり、“Hi” が点滅します。車を停車させ、エンジンを冷ましてください。

要　点

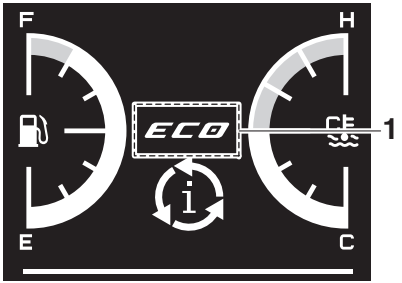
エンジンがオーバーヒートしているときは、情報ディスプレイを切り替えることができません。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

エコ表示



1. エコ表示

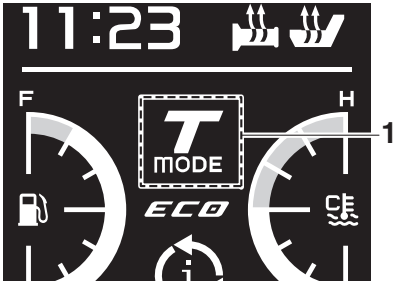
車が環境にやさしく、好燃費の状態で運転されているとき、この表示が点灯します。車両が停車すると、表示が消灯します。

要　点

燃料消費量を抑えるには、次の点を考慮してみてください。

- 急な加速を避ける
- 一定速度で走行する

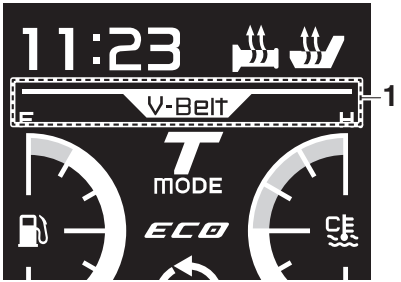
ドライブモード表示



1. ドライブモード表示

この表示は、スポーツ “S” とツーリング “T” のうち、どちらのモードが選択されているかを示します。(4-3 ページ参照)

V ベルト交換表示



1. V ベルト交換表示 “V-Belt”

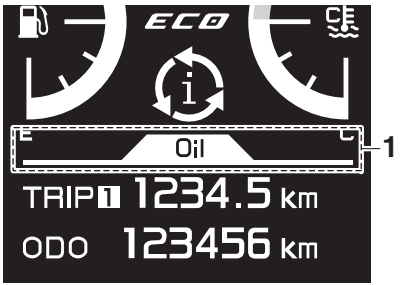
この表示は、V ベルトの交換が必要になる 20000 km 走行毎に点滅します。

V ベルトの交換後は、V ベルト交換表示をリセットしてください。(5-12 ページ参照)

要　点

V ベルト交換表示の点滅前に V ベルトを交換したときは、次の交換時期に適切に表示されるよう、リセット操作をする必要があります。

オイル交換表示



1. エンジンオイル交換表示 “Oil”

この表示は、初回 1000 km と、以降 6000 km 毎に点滅し、エンジンオイル交換を促します。
エンジンオイルの交換後は、オイル交換表示をリセットしてください。(5-12 ページ参照)

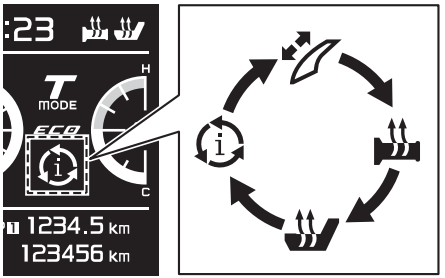
要　点

オイル交換表示の点滅前にエンジンオイルを交換したときは、次の交換時期に適切に表示されるよう、リセット操作をする必要があります。

グリップウォーマー / シートヒーターアイコン

グリップウォーマー、シートヒーターの使用中に、各アイコンが表示されます。

機能ディスプレイ



“MENU” スイッチを押すと、ウインドシールド、グリップウォーマー、シートヒーターの各調整機能と情報ディスプレイ選択機能の間で表示が切り替わります。

ウインドシールドの位置調整

ウインドシールドを上げるには、セレクトスイッチの “∧” 側を押します。下げるには、“∨” 側を押します。

グリップウォーマーの調整

この車にはグリップウォーマーが装備されており、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。設定には 4 段階あります。

設定	表示
切	
低	
中	
高	

グリップウォーマーの温度を上げるには、セレクトスイッチの “∧” 側を押します。下げるには、“∨” 側を押します。

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**

● ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。

シートヒーターの調整

この車にはシートヒーターが装備されており、走行中にのみ使用できます。設定には 4 段階あります。

設定	表示
切	
低	
中	
高	

シートヒーターの温度を上げるには、セレクトスイッチの “∧” 側を押します。下げるには、“∨” 側を押します。

JCA23980

注 意

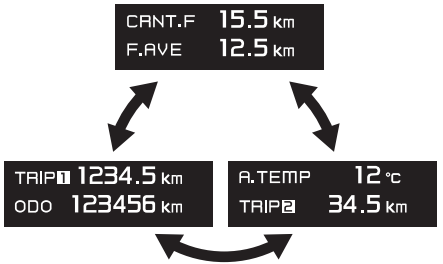
● シートヒーターを使うときは、臀部や脚部を保護できる衣類を着用してください。

● 外気温が 20°C 以上のときは、シートヒーターを高設定にしないでください。

● シートが擦り切れたり傷んだりしてきたときは、シートヒーターの使用を中止して、シートを交換してください。

情報ディスプレイの変更

情報ディスプレイの項目は、3 つのページにグループ化されています。



セレクトスイッチの “∧” 側もしくは “∨” 側を押して、各ページを切り替えます。

要 点

各ページに表示される項目は、カスタマイズできます。(5-13 ページ参照)

オドメーター：



車の総走行距離を表示します。

トリップメーター：





“TRIP1” および “TRIP2” は、ゼロにリセットされてからの走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットするには、セレクトスイッチでリセットしたいトリップメーターを含むページを選択します。次に、セレクトスイッチの “∧” 側を 1 秒間押してトリップメーターを点滅させ、トリップメーター点滅中にセレクトスイッチの “∧” 側を再度 1 秒間押します。

要 点

- オドメーターは最大値 999999 で固定されます。
- トリップメーターは 9999.9 に到達するとリセットされ、カウントを続けます。



5

燃料タンク内の燃料残量がおよそ 3.0 L になると、燃料計の最後のセグメントが点滅を始めます。加えて、情報表示も自動的にフューエルトリップメーター “F-TRIP” に切り替わり、その時点からの走行距離を計測します。この場合、セレクトスイッチを押すと次の順番で表示が切り替わります。

フューエルトリップメーター ⟷ ページ 1 ⟷ ページ 2 ⟷ ページ 3 ⟷ フューエルトリップメーター

フューエルトリップメーターは手動でリセットしなくても、給油後 5 km 走行すると自動的にリセットされます。

要　点

“F-TRIP” が表示されている間は、メニューモード（5-10 ページを参照）に入ることができません。

航続可能距離：



現在の乗車状況および燃料残量における、走行可能距離の予測値を表示します。

気温計：



気温を、–9 °C から 50 °C まで、1 °C 刻みで表示します。表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

要　点

- –9 °C を下回っても、表示は –9 °C となります。
- 50 °C を上回っても、表示は 50 °C となります。

平均燃料消費量：



平均燃料消費量モード “km/L” もしくは “L/100km” は、表示が最後にリセットされてからの平均燃料消費量を表示します。

- “km/L” は、燃料 1.0 L あたりの平均走行距離を表します。
- “L/100km” は、100 km 走行するのに必要な平均燃料量を表します。

平均燃料消費量表示をリセットするには、セレクトスイッチでリセットしたいトリップメーターを含むページを選択し、セレクトスイッチの “∧” 側を 1 秒間押して平均燃料消費量表示を点滅させ、平均燃料消費量表示が点滅中にセレクトスイッチの “∧” 側を 1 秒間押します。

要　点

平均燃料消費量表示のリセット後は、1 km 走行するまでは “– –.–” が表示されます。

JCA15474

注 意

故障がある場合、常に “– –.–” と表示されます。ヤマハ販売店で車の点検を依頼してください。

瞬間燃料消費量：



瞬間燃料消費量表示モード “km/L” もしくは “L/100km” は、現在の走行状況での燃料消費量を表示します。

- “km/L” は、燃料 1.0 L あたりの走行距離を表します。
- “L/100km” は、100 km 走行するのに必要な燃料量を表します。

要　点

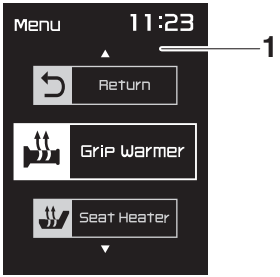
時速 10 km/h 以下で走行しているときは、“– –.–” が表示されます。

JCA15474

注 意

故障がある場合、常に “– –.–” と表示されます。ヤマハ販売店で車の点検を依頼してください。

メニューモード



1. 設定モード表示

車両を停車させ、“MENU” スイッチを 2 秒間押して、メニューモードに入ります。メニューモードを抜けて通常表示に戻るには、“MENU” スイッチを再度 2 秒間押すか、“Return” を選択します。

要 点

エンジン警告灯または、その他のシステム表示灯が点灯している場合、メニューモードの表示が制限される場合があります。

メニュー項目

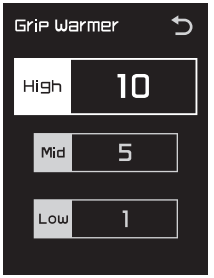
カテゴリー	説明
Grip Warmer	low、middle、high の各設定を 10 段階に割り当てます。
Seat Heater	low、middle、high の各設定を 10 段階に割り当てます。
Traction Control	トラクションコントロールシステムの ON・OFF を切り替えます。
Maintenance	オイル交換、V ベルト交換、および “FREE” の各メンテナンス項目につき、間隔の確認およびリセットが行えます。
Unit	燃料消費量の表示単位を、“km/L” と “L/100km” の間で切り替えます。
Display	各情報ディスプレイにおける表示アイテムを変更します。
Brightness	メーターパネルの明るさを変更できます。
Clock	時刻調整を行います。
All Reset	オドメーター、時計、メンテナンス項目 “Oil” および “V-Belt” を除く全ての項目を、工場出荷時の状態にリセットします。

グリップウォーマーの設定

1. セレクトスイッチで “Grip Warmer” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押します。グリップウォーマー設定画面が表示されます。



3. “MENU” スイッチを押します。high に対応する温度の設定値がハイライト表示されます。
   セレクトスイッチで設定温度を決め、“MENU” スイッチを押して確定します。

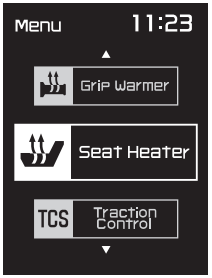
5



4. セレクトスイッチで “Mid” もしくは “Low” をハイライト表示させ、high と同じ要領で設定を行います。
5. 設定が終わったら、セレクトスイッチで “⮌” をハイライト表示させ、“MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

シートヒーターの設定

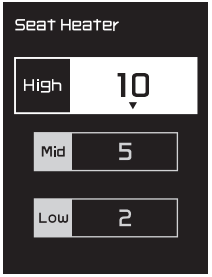
1. セレクトスイッチで “Seat Heater” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押します。シートヒーター設定表示画面が表示されます。



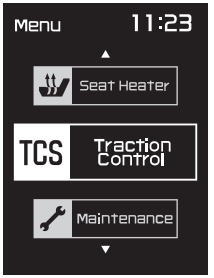
3. “MENU” スイッチを押します。high に対応する温度の設定値がハイライト表示されます。
セレクトスイッチで設定温度を決め、“MENU” スイッチを押して確定します。



4. セレクトスイッチで “Mid” もしくは “Low” をハイライト表示させ、high と同じ要領で設定を行います。
5. 設定が終わったら、セレクトスイッチで “⮌” をハイライト表示させ、“MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

トラクションコントロールシステムの設定

1. セレクトスイッチで “Traction Control” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押します。トラクションコントロールシステム設定画面が表示されます。



3. トラクションコントロールシステムを “OFF” にするには、セレクトスイッチの “∨” 側を 2 秒間押します。



4. トラクションコントロールシステムを再度 “ON” にするには、セレクトスイッチの “∧” 側を押します。

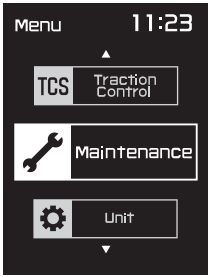
要　点

車両の電源が ON になると、トラクションコントロールシステムは自動的に “ON” にセットされます。

5. 設定が終わったら、“MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

メンテナンスカウンターのリセット

1. セレクトスイッチで“Maintenance”をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押し、セレクトスイッチでリセットしたい項目を選択します。



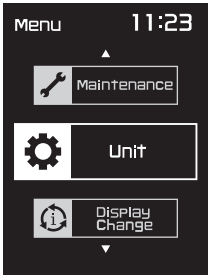
3. “MENU” スイッチを押し、リセットしたい項目をハイライト表示させ、セレクトスイッチの “∧” 側を 1 秒間押します。



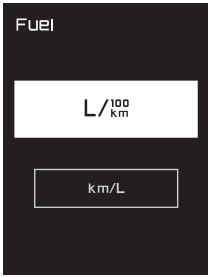
4. 設定が終わったら、セレクトスイッチで “⮌” をハイライト表示させ、“MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

表示単位の選択

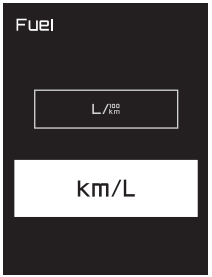
1. セレクトスイッチで “Unit” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押します。表示単位設定画面が表示されます。



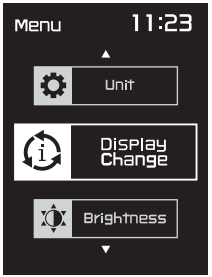
3. セレクトスイッチで “L/100km” か “km/L” を選択します。



4. “MENU” スイッチを押して、設定を確定します。同時に、設定モード画面に戻ります。

表示項目の選択

1. セレクトスイッチで “Display Change” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押し、セレクトスイッチで変更したい画面をハイライト表示させ、再度 “MENU” スイッチを押します。

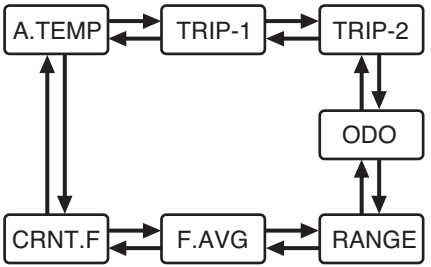


3. セレクトスイッチで変更したい項目をハイライト表示させ、“MENU” スイッチを押します。

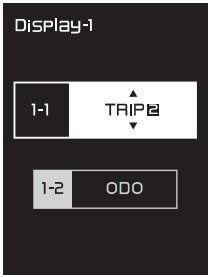


要 点

表示順は次のとおりです。



4. セレクトスイッチで表示する項目を選択し、“MENU” スイッチを押します。



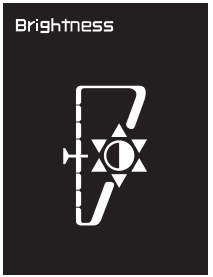
5. 設定が終わったら、セレクトスイッチで“⮌”をハイライト表示させ、“MENU”スイッチを押して前の画面に戻ります。
6. セレクトスイッチで“⮌”をハイライト表示させ、“MENU”スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

メーターの明るさ調整

1. セレクトスイッチで“Brightness”をハイライト表示させます。



2. “MENU”スイッチを押します。
3. セレクトスイッチで、お好みの明るさを選択します。



4. “MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

時刻設定

要　点

時計は 12 時間制です。

1. セレクトスイッチで“Clock”をハイライト表示させます。



2. “MENU”スイッチを押します。
3. 時の表示がハイライト表示されたら、セレクトスイッチで時の値を設定します。



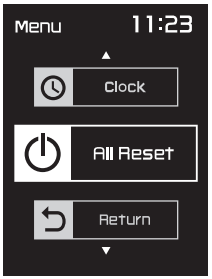
4. “MENU”スイッチを押して、分の表示をハイライト表示させます。



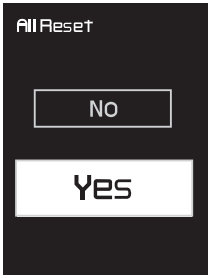
5. セレクトスイッチで分の値を設定します。
6. “MENU” スイッチを押して設定モードメニューに戻ります。

表示項目のオールリセット

1. セレクトスイッチで “All Reset” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチを押します。
3. セレクトスイッチで “YES” をハイライト表示させ、“MENU” スイッチを押します。全ての項目が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。



要　点

オドメーター、時計、メンテナンス項目 “Oil” および “V-Belt” はリセットされません。

メニューモードの終了

1. セレクトスイッチで “Return” をハイライト表示させます。



2. “MENU” スイッチで設定モードを抜け、通常の表示モードに戻ります。

JAU12333

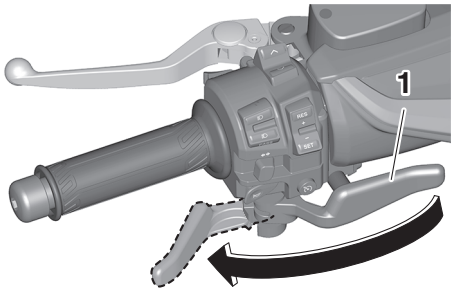
盗難警報器（別売アクセサリー）

この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU63230

リヤブレーキロックレバー

エンジンを始動するとき、料金所などでの一時停車のとき、両手を離した状態で車両を停車するときなどに使用します。
リヤブレーキロックレバーを左方向へ倒すと後輪がロックされます。
リヤブレーキロックの解除は、リヤブレーキロックレバーを右方向へ戻します。



1. リヤブレーキロックレバー

JWA12501

⚠警 告

リヤブレーキロックレバーは走行中絶対に使用しないでください。走行中に作動させると安定性を損なう場合があります。

JCA13051

注 意

確実にリヤホイールの回転が止まった状態で、リヤブレーキロックレバーを使用してください。

JAU65583

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

要 点

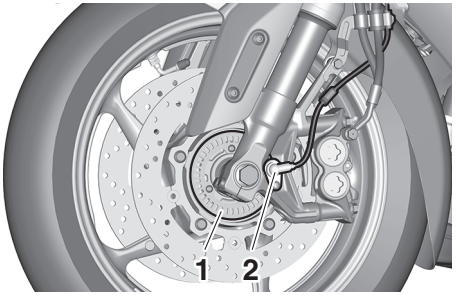
- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- 車両の電源を ON にして 10 km/h 以上の速度で走行するまで ABS は自己診断を行っています。この間、車の前方から “ カチカチ ” 音がすることがありますが、故障ではありません。

- このABSには、ABSが作動している状態（ブレーキレバーに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

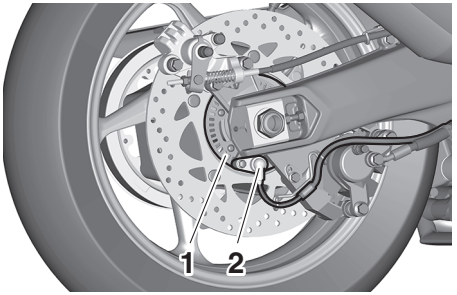
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAU77324

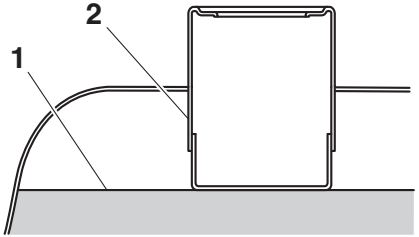
フューエルタンクキャップ

JWA12172

警 告

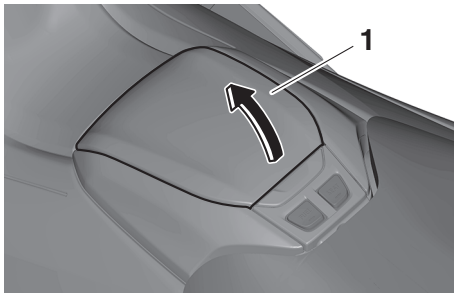
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



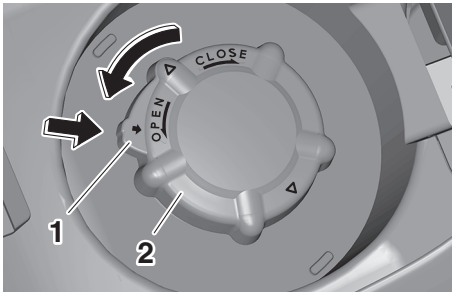
1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクキャップリッドを開けると、フューエルタンクキャップがあります。(3-9 ページ参照)



1. フューエルタンクキャップリッド

フューエルタンクキャップを取り外すには、ロック解除ボタンを押しながら、フューエルタンクキャップを反時計回りに回転させます。



1. ロック解除ボタン
2. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを取り付けるには、ロック解除ボタンが飛び出てくるまで、フューエルタンクキャップを時計回りに回転させます。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
　無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
　約 15 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU88752

トランク

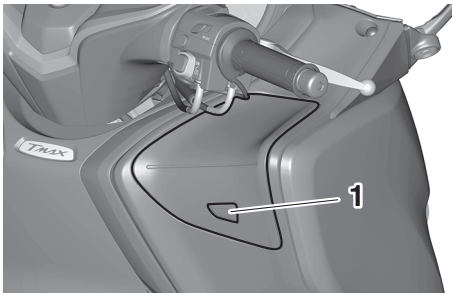
JWA21060

⚠警 告

以下の荷重制限を越えないでください。
- **フロントトランク : 1.0 kg**
- **リヤトランク : 5.0 kg**

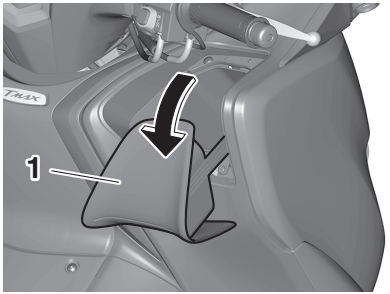
フロントトランク

トランクを開けるには、ボタンを押します。



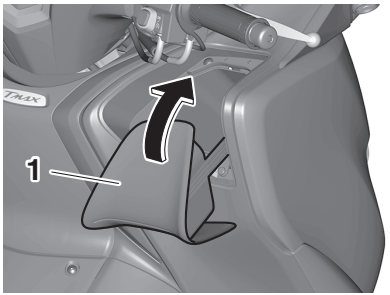
1. ボタン

図のようにリッドを開きます。



1. リッド

トランクを閉じるには、リッドを元の位置に戻します。



1. リッド

要 点

フロントトランクは、スマートキーシステムにより解錠します。（3-9 ページを参照）

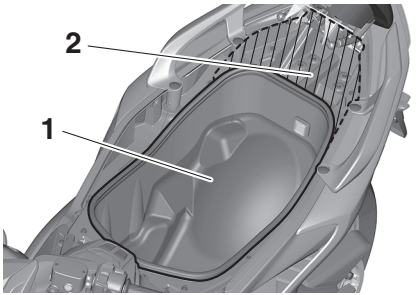
リヤトランク

リヤトランクは、フルフェイスヘルメット 1 つ、もしくはジェットヘルメット 2 つが収納できるようになっています。

JCA16092

注 意

斜線で示した部分は、トランクではありません。シートヒンジの損傷を防ぐために、この場所に物を置かないでください。



1. リヤトランク
2. 斜線で示した部分

要 点

- 大きさや形状によっては、リヤトランクに収納できないヘルメットもあります。
- シートを開けたまま、車から離れないでください。

- スマートキーをトランク内に入れたままにしないでください。スマートキーをトランク内に閉じ込めると、スマートキーが正常に作動しなくなることがあります。

JCA15964

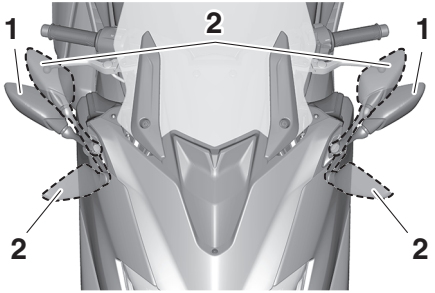
注 意

- **シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。**
- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JAU77585

リヤクッションの調整

JWA10222

警 告

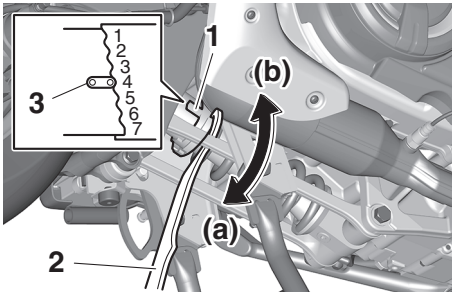
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

この車には、調整可能なサスペンションが装備されています。スプリングプリロードと、伸側減衰力が調整できます。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。



1. スプリングプリロードアジャストリング
2. 調整レンチ
3. インジケーター

要　点

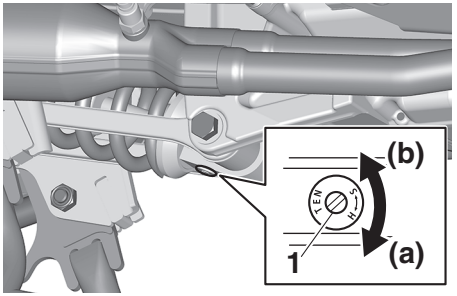
- アジャストリングの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。
- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
7 段
標準
4 段
最大（ハード）
1 段

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 3 回転
標準：
(b) 方向へ 1.25 回転
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 回転

要　点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JCA10102

注 意

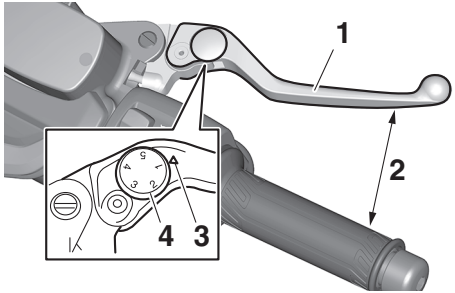
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JAU46201

ブレーキレバーの握り調整

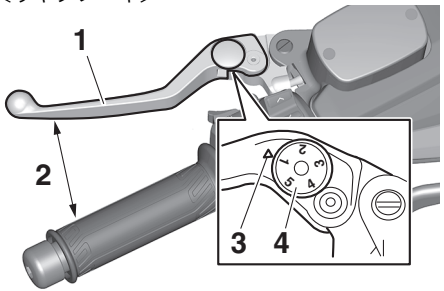
手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。

＜フロントブレーキ＞



1. フロントブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

＜リヤブレーキ＞



1. リヤブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

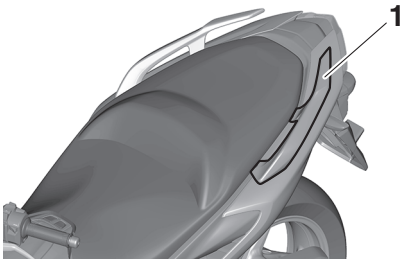
要　点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。

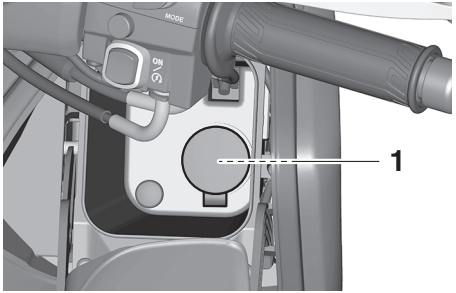


1. スタンディングハンドル

JAU77352

DC ジャック

この車には、12V 用の DC ジャックが搭載されています。DC ジャックはフロントトランク内にあります。



1. DC ジャック

JCA15432

注 意

DC ジャックに接続するアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 24 W (2 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

DC ジャックの使いかた

1. フロントトランクを開けます。
2. 車両の電源を OFF にします。
3. DC ジャックキャップを外します。
4. アクセサリーの電源を OFF にします。
5. アクセサリーのプラグを DC ジャックに差し込みます。
6. 車両の電源を ON にし、エンジンを始動します。
7. アクセサリーの電源を ON にします。

要 点

使用後は、アクセサリーの電源を OFF にし、プラグを DC ジャックから抜き、DC ジャックキャップを取り付けてください。

JWA14361

⚠ 警 告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU63612

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む）には次の機能があります。

- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11552

⚠警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店で車の点検を受けてください。**

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチを“Ω”にします。
3.車の電源をONにします。
4.リヤブレーキレバーを握ります。
5.スタータースイッチ“ON/⊛”を押します。
エンジンは始動しましたか？

いいえ　はい → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。**すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。**

エンジンが停止した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.リヤブレーキレバーを握ります。
8.スタータースイッチ“ON/⊛”を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　いいえ → ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。**すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。**

エンジンが始動した状態のまま：
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　いいえ → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。**すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。**

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30173

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5100 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU89651

エンジン始動

JCA11921

注 意

初めて車両を運転する前に、7-1 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要 点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、5-24 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスタンドを立てます。
2. リヤブレーキロックレバーで後輪をロックします。
3. 車両の電源をオンにし、エンジンストップスイッチが “⎔” にセットされていることを確認します。
4. スロットルを完全に閉じます。
5. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチ “ON/⎓” を押して、エンジンを始動させます。

要 点

スタータースイッチ “ON/⎓” で 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチ “ON/⎓” を押してください。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU77750

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 傾斜角センサーにより、転倒時にエンジンが停止します。この場合、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。車の電源を OFF にして、警告灯を消灯させます。消灯させないと、スタータースイッチを押しても、エンジンを始動させることはできません。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU44151

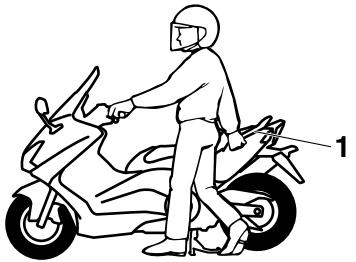
発進

JWA12261

⚠ 警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

JWA12271

⚠ 警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. リヤブレーキロックレバーを解除します。
4. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
5. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

⚠ 警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

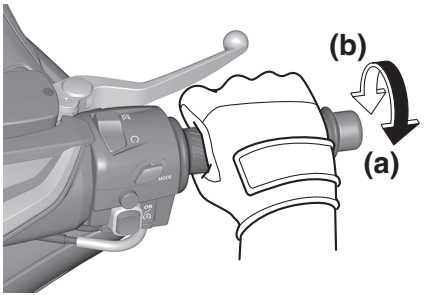
6. 方向指示器を消灯します。

7

JAU16782

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには､スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JCA12682

注 意

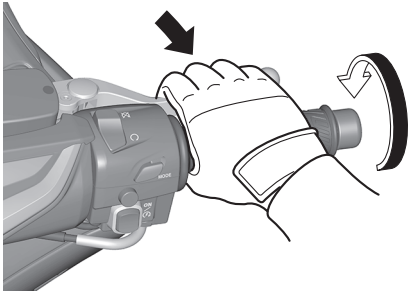
- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。**
- **不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。**

JAU16794

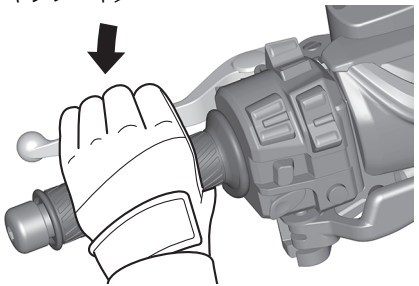
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠ 警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU77962

駐車

駐車するときは、車両の電源をオフにしてエンジンを止め、スマートキーをロックしてください。
エンジン始動中、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。このとき、電源の切り忘れを防ぐため、アラームが鳴って運転者にお知らせします。アラームを止めるには、車両の電源をオフにするかサイドスタンドを上げます。
車から離れるときは、ハンドルロックとメインスタンドロックをかけ、運転者がスマートキーを携帯してください。



要　点

- スマートキーシステムがオンで、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動などが可能になります。
- 上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11582

⚠ 警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

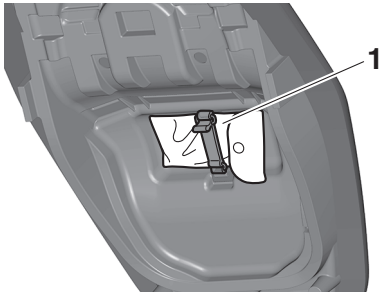
要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

8

JAU85230

サービスツール



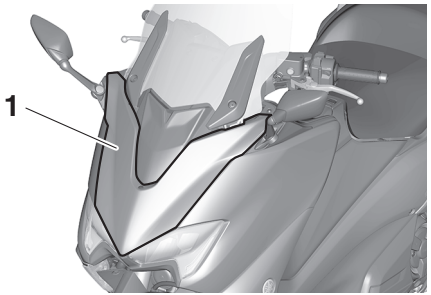
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

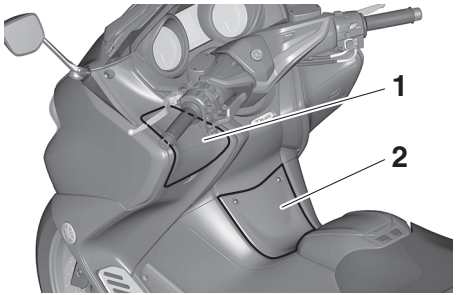
JAU18752

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



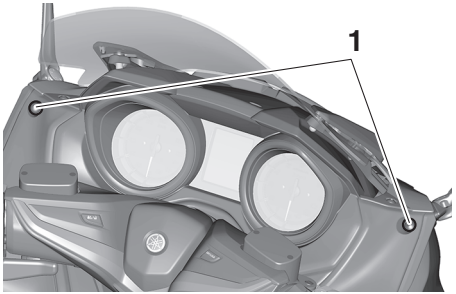
1. カバー B
2. カバー C

JAU77482

カバー A

カバーの取り外しかた

1. スクリューを取り外します。



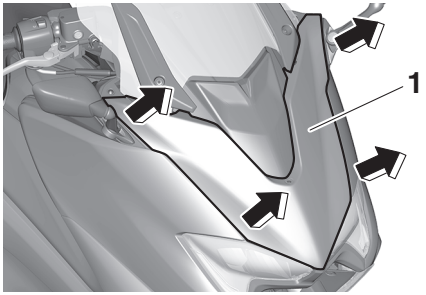
1. スクリュー



1. スクリュー

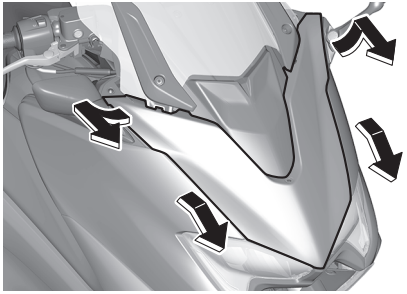
8

2. 図のように左右のカバー上部を引き出します。



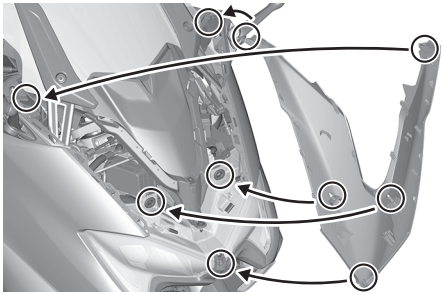
1. カバー A

3. 図のようにカバーを取り外します。



カバーの取り付けかた

1. カバーの左右上部にあるツメを差し込みます。
2. 中央および下部の突起を合わせ、元の位置まで押し込んでカバーを取り付けます。

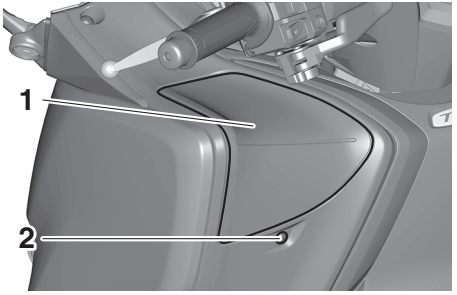


3. スクリューを取り付けます。

カバー B

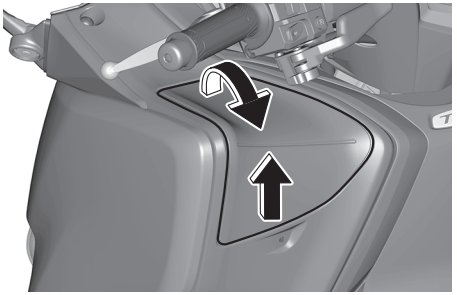
カバーの取り外しかた

1. スクリューを取り外します。



1. カバー B
2. スクリュー

2. 図のようにカバー上部を持ち上げた後、全体を上方にスライドさせて取り外します。



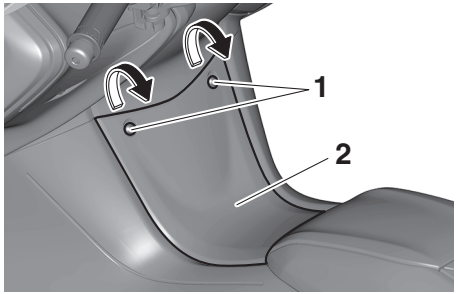
カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた

スクリューを取り外し、図のようにカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー C

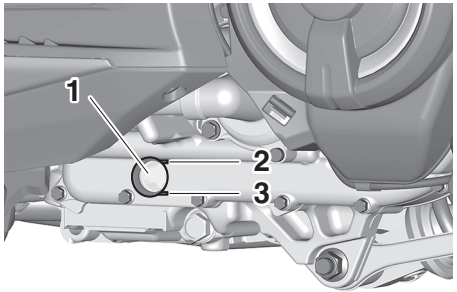
カバーの取り付けかた
カバーを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。

JAU30407

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. エンジンを始動し、2 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを止めて 2 分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

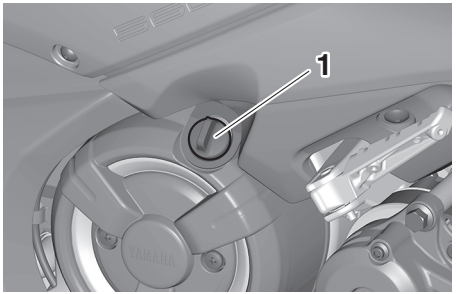


1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

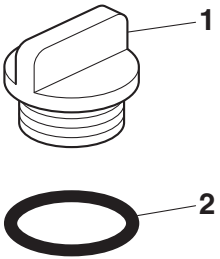
4. オイル量がロアレベル以下のときはエンジンオイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

8

JAU90230

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
6000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時：
2.60 L
オイルフィルター取り外し時：
2.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
18000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要 点

オイル交換表示 “Oil” が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（5-5 ページ参照）

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

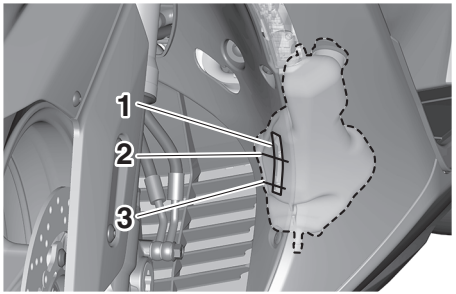
JAU57180

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

フロントカウリングの左下にある点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



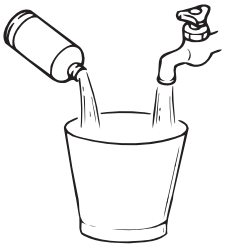
1. 冷却水点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を１対１で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注 意

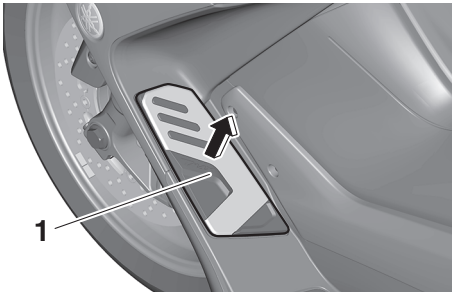
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU57190

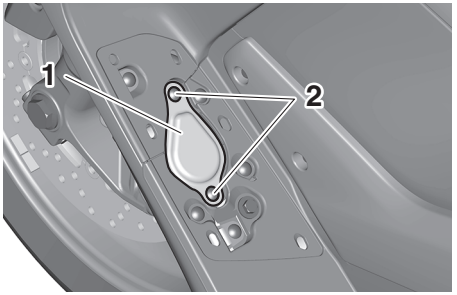
冷却水の補充

フロントカウリングの左下にある点検窓からリカバリータンク内の冷却水量を点検します。液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. 左のフットボードラバーを外し、スクリューを外してリカバリータンクカバーを取り外します。

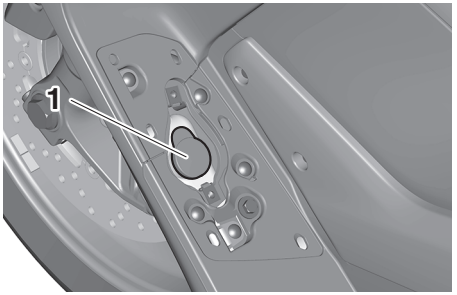


1. フットボードラバー



1. リカバリータンクカバー
2. スクリュー

2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップ、リカバリータンクカバー、フットボードラバーを取り付けます。

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU90240

エアクリーナーエレメントの交換

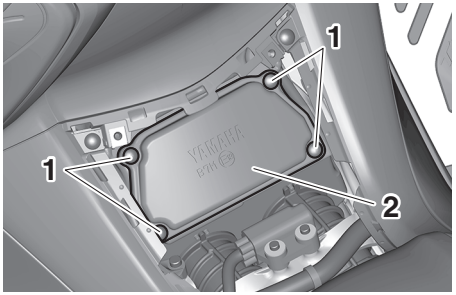
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。
また、ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースは定期的に点検、清掃をヤマハ販売店にご依頼ください。

JCA11951

注 意

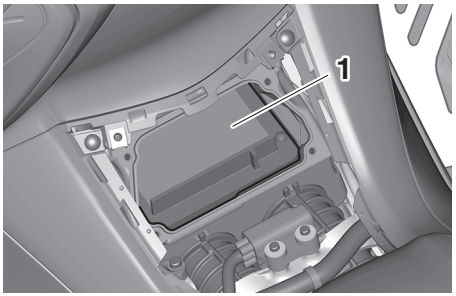
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

1. カバー C を取り外します。(8-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。



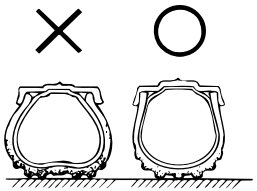
1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバー C を取り付けます。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
2名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
280 kPa (2.80 kgf/cm²)

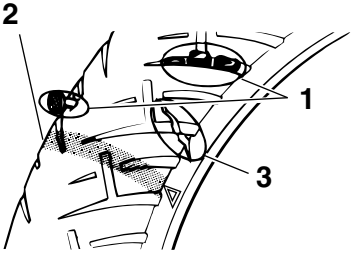
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警 告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70R15M/C 56H
後輪：
160/60R15M/C 67H
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCF
後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCR

JAU29162

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11751

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

8

JAU34991

リヤブレーキロックのきき具合

リヤブレーキロックをかけ、車を押してリヤブレーキロックのききが充分であるか点検します。リヤブレーキロックのききが不充分なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

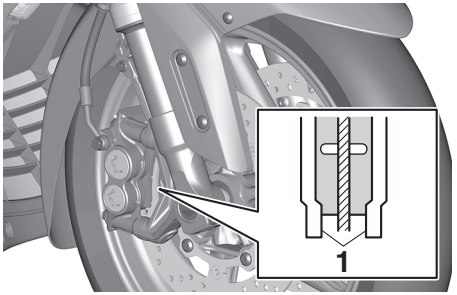
JAU46171

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら交換してください。



1. インジケーター

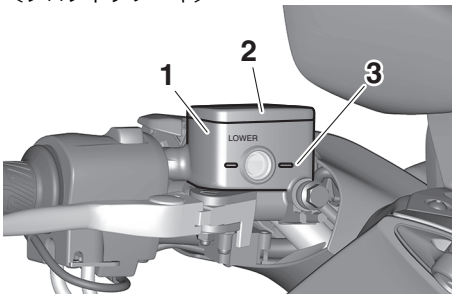
＜リヤブレーキ＞

リヤブレーキパッドの摩耗の点検は、ヤマハ販売店でお受けください。

JAU44233

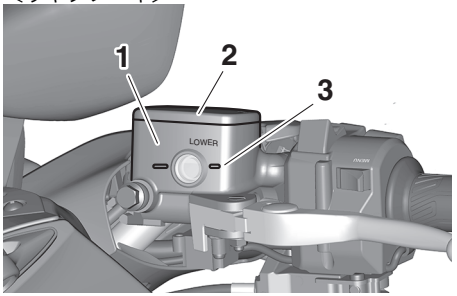
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. リザーバータンク
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. リザーバータンク
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

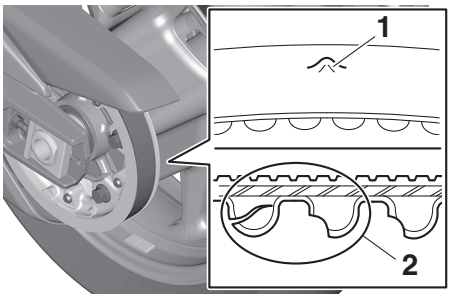
JAU88810

ドライブベルト

走行前に、ドライブベルトに摩耗や損傷、汚れがないか点検してください。
また、ドライブベルトは、定期的な点検・調整が必要です。
ドライブベルトの点検・調整は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

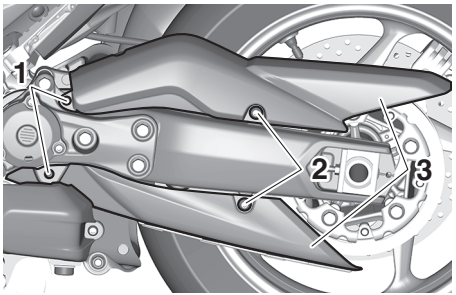
ドライブベルトの点検

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. リヤホイールを回転させ、ドライブベルトに摩耗や損傷がないか点検します。



1. 石による損傷
2. 歯の損傷

3. 摩耗や損傷、ひび割れなどがある場合は、ドライブベルトの点検・交換をヤマハ販売店へ依頼してください。
4. ドライブベルトやスプロケットに汚れがある場合は、ボルトとクイックファスナーを外し、ドライブベルトカバーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ボルト
3. ドライブベルトカバー

5. ドライブベルトとスプロケットを清掃します。

JCA26970

注 意

ドライブベルトに泥や砂が溜まらないようにしてください。泥や砂が溜まると、摩耗が早まる場合があります。

6. ドライブベルトカバーを元の位置に取り付け、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

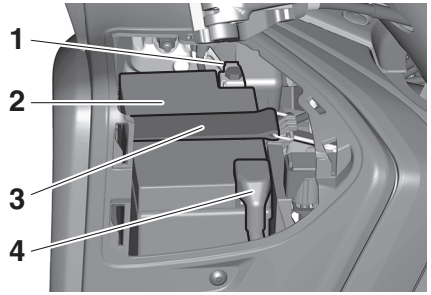
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU61910

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー B を取り外します。（カバーの取り外しは 8-2 ページ参照）
3. バッテリーバンドを外します。
4. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. －リード線
2. バッテリー
3. バッテリーバンド
4. ＋リード線

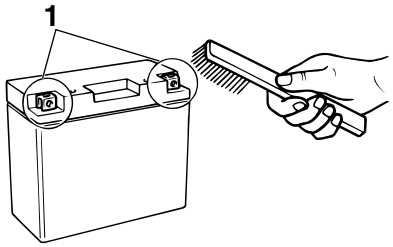
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

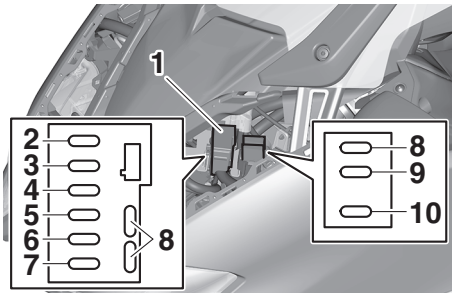


1. ターミナル

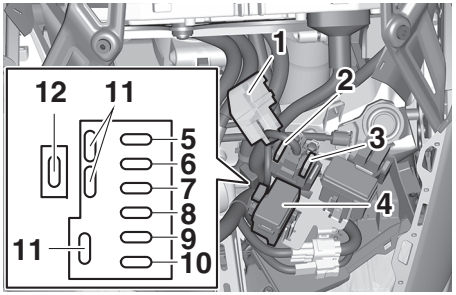
JAU81474

ヒューズ交換

ヒューズボックス 1 とブレーキランプヒューズ、クルーズコントロールヒューズはカバー A の下にあります。(8-2 ページ参照)
ヒューズボックス 2 とメインヒューズはウインドシールドの下にあります。



1. ヒューズボックス 1
2. ABS コントロールユニットヒューズ
3. DC ジャックヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. 電子制御スロットルバルブヒューズ
6. ABS モーターヒューズ
7. ABS ソレノイドヒューズ
8. スペアヒューズ
9. クルーズコントロールヒューズ
10. ブレーキランプヒューズ



1. スターターリレーカバー
2. メインヒューズ
3. スペアメインヒューズ
4. ヒューズボックス 2
5. シグナルヒューズ
6. イグニッションヒューズ
7. テールランプヒューズ
8. ラジエターファンモーターヒューズ
9. フューエルインジェクションヒューズ
10. バックアップヒューズ
11. スペアヒューズ
12. ウインドシールドモーターヒューズ

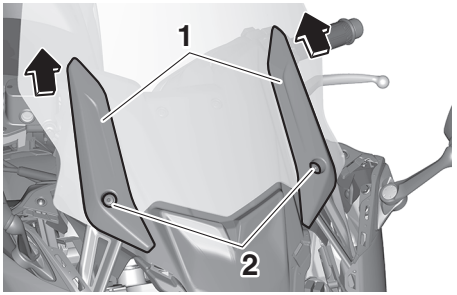
8

要　点

メインヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外す必要があります。

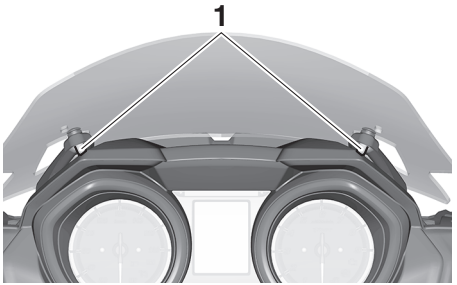
ヒューズボックス 2 とメインヒューズを交換する場合は、以下の手順で行ってください。

1. カバー A を取り外します。(8-2 ページ参照)
2. クイックファスナーを外し、スクリューアクセスカバーを取り外します。



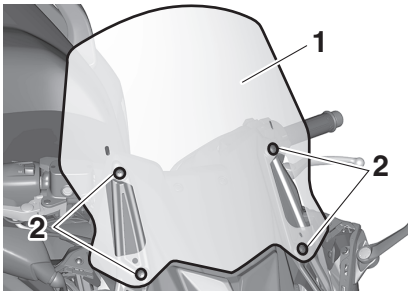
1. スクリューアクセスカバー
2. クイックファスナー

3. キャップを取り外します。



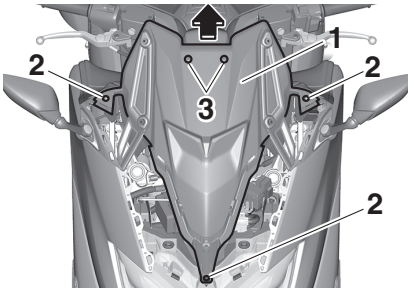
1. キャップ

4. スクリューを外し、ウインドシールドを取り外します。



1. ウインドシールド
2. スクリュー

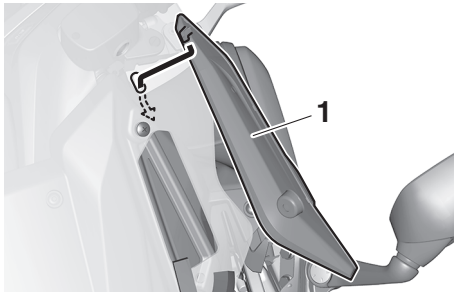
5. ボルトとクイックファスナーを外し、インナーカバーを取り外します。



1. インナーカバー
2. ボルト
3. クイックファスナー

6. インナーカバーを元に位置に取り付け、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

7. ウインドシールドを元の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。
8. キャップを取り付けます。
9. スクリューアクセスカバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。



1. スクリューアクセスカバー

10. カバー A を取り付けます。

ヒューズが切れた時は、以下のように交換します。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：

メイン：
40.0 A
ヘッドライト：
7.5 A
テールランプ：
7.5 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
7.5 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
フューエルインジェクション：
7.5 A
ABS コントロールユニット：
7.5 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
DC ジャック：
2.0 A
バックアップ：
15.0 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A
ブレーキランプ：
1.0 A
クルーズコントロール：
1.0 A
ウインドシールドモーター：
20.0 A

JCA12862

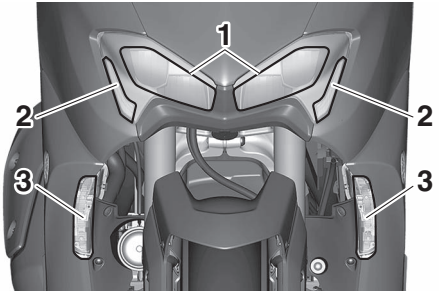
注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

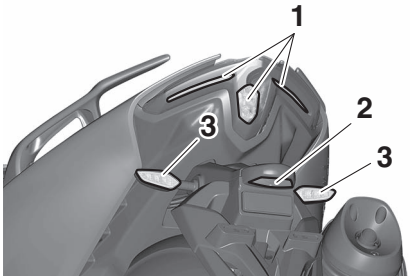
3. 車両の電源をオンにし、それぞれの電気装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ
3. 方向指示灯（前）



1. ブレーキ / テールランプ
2. 番号灯
3. 方向指示灯（後）

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-14 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU81041

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はオンになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“ ”になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の1セグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ “ON/ ”を押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチ “ON/ ”を押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチ “ON/ ”を押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はオンになっていますか？また、エンジンストップスイッチは“ ”になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ “ON/ ”を押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。8-14 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. 車両の電源がオンになっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。8-14 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の 1 セグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

JCA12531

注 意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

8

走行中、オイル交換表示 “Oil” が点滅したときは？
早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）
交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12311

注 意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

走行中、ABS 警告灯 “ (ABS) ” が点灯または点滅したときは？
ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけて、直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？
スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？ 3-3 ページを参照して、スマートキーをアンロックの状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？車両の電源をオンする時にキー表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-4 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-1 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？電池の取り付け状態を確認してください。（3-4 ページ参照）
- 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
- 壊れたスマートキーを使用していませんか？ 3-2 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。
- バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、8-13 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。
メカニカルキーを使用してエンジンを始動する方法については、8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。
メカニカルキーを使用してシートのロックを解除する方法については、8-20 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピピピ」とアラームが鳴ったときは？
故障ではありません。
エンジン始動中、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 5 秒間鳴ります。

JCA22550

注 意

サイドスタンドを出してエンジンを停止させたときは、必ず車の電源を OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU77373

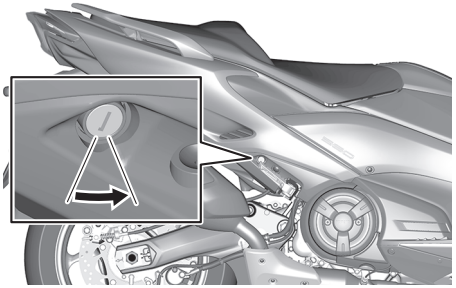
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことでスマートキーシステムをオンにすることができます。

要　点

- 各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。
- エマージェンシーモード中に車両の電源オフ操作（OFF ／ハンドルロックスイッチ “OFF/LOCK” 操作）をすると、エマージェンシーモードが解除されます。

1. 車を安全な場所に停車させます。
2. 車両右側にあるキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、反時計方向に回すことによって、シートロックを解除します。



3. シートを開けます。このとき、トランク照明灯が点灯していることを確認してください。シートを開けてもトランク照明灯が点灯しないときは、販売店へご相談ください。
4. “ON/⏻” スイッチを押します。
5. シートを開けた状態で、シートの上げ下げ（シートのロックはしない）を 10 秒以内に 3 回以上行います。

要　点

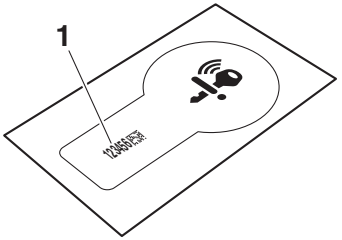
シートの上げ下げを行うときは、トランク照明灯の点灯、消灯を目安にして行ってください。

メーターのスマートキーシステム表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。



1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

6. スマートキーシステム表示灯消灯後、“🔒/🔓” スイッチを使って、ID 番号カードを参照して ID を入力します。



1. ID 番号

7. ID の入力数値は、スマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。
操作例（ID:123456 を入力するとき）
“🔒/🔓” スイッチを押し続けます。
↓

8

スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。
↓



1 回点滅したところで“🔒/🔓”スイッチをはなします。
↓
1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。
↓
再び“🔒/🔓”スイッチを押し続けます。
↓



2 回点滅したところで“🔒/🔓”スイッチをはなします。
↓
2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。
↓
以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。正しい 6 桁の ID を入力すると、スマートキーシステム表示灯が 10 秒間点灯します。

要　点

下記のどちらかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、“🔒/🔓”スイッチの操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を 9 回以上点滅させたとき

8. スマートキーシステム表示灯が点灯している間に“ON/⏻”スイッチを押すと、電源がオンになります。

要　点

- 入力した 6 桁の ID が間違っていた場合は、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間速い点滅をし、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。
- エマージェンシーモードで電源をオンにした後に電源オフしたときは、電源オフ後 30 秒間はスマートキーの認証なしにハンドルを左に切って、“OFF/LOCK”スイッチを押すことでハンドルのロックが可能となります。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

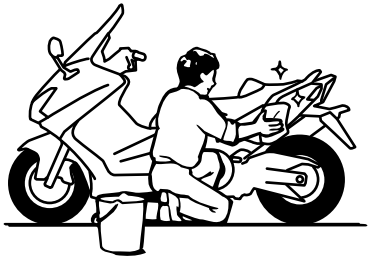
JAU27976

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポン**

ジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27991

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

⚠警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU28051

ウインドシールドの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

⚠警 告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

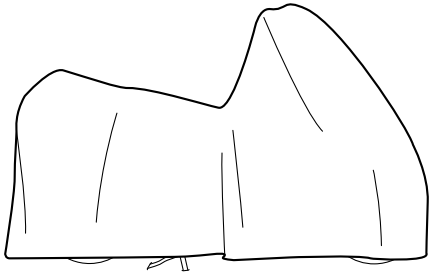
注 意

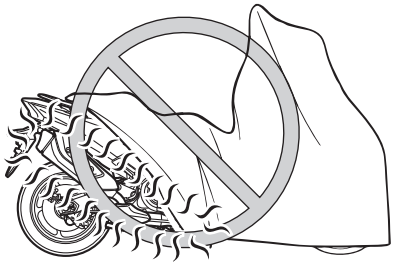
- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28115

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ バイク オイル　検索



寸法：
全長：
2200 mm
全幅：
765 mm
全高：
1420/1555 mm
シート高：
800 mm
軸間距離：
1575 mm
最低地上高：
125 mm
重量：
車両重量：
220 kg
乗車定員：
2 名
性能：
最小回転半径：
2.8 m
エンジン：
行程：
4 ストローク
冷却方式：
水冷
動弁機構：
DOHC
配列：
直列
気筒数：
2 気筒
総排気量：
561 cm³
フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)
リヤブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)
フロントタイヤ：
種類：
チューブレス
サイズ：
120/70R15M/C 56H
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCF
リヤタイヤ：
種類：
チューブレス
サイズ：
160/60R15M/C 67H
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BATTLAX SCR
エレクトリカル：
電圧：
12V
バルブワット数：
ヘッドライト：
LED
ブレーキ / テールランプ：
LED
方向指示灯（前）：
LED
方向指示灯（後）：
LED
番号灯：
5.0 W
マーカーランプ：
LED
エンジンオイル：
推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量：
オイル交換時：
2.60 L
オイルフィルター取り外し時：
2.90 L
冷却水容量：
リザーブタンク（FULL レベルまで）：
0.25 L
ラジエターと全ての経路：
1.54 L
バッテリー：
バッテリー型式：
YTZ12S
バッテリー容量：
12 V, 11.0 Ah (10 HR)
スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/LMAR7G

製品仕様

プラグギャップ :
0.7–0.8 mm

JAU36644

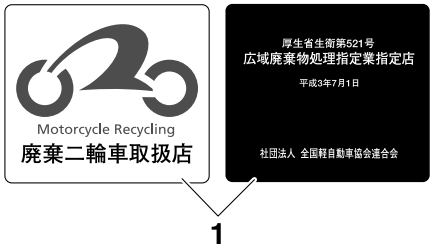
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



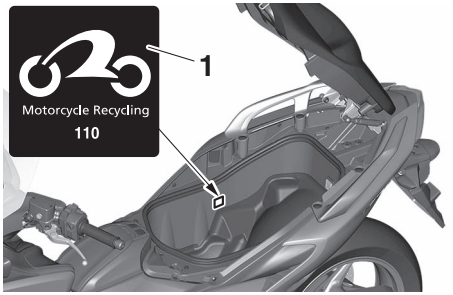
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

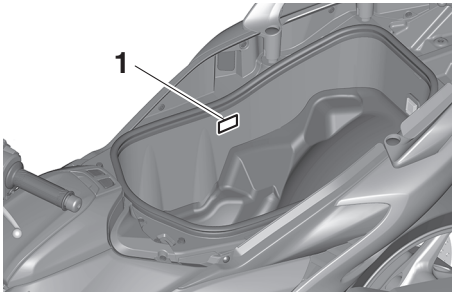
QQS-CLT-000-B3T

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、リヤトランク右側に貼り付けてあります。



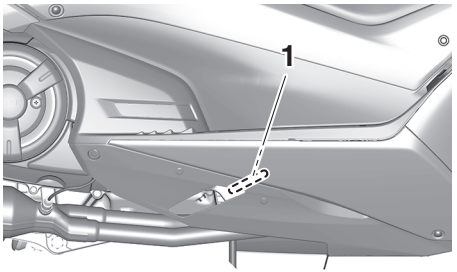
1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
TMAX560 Tech
モデルラベル
製品仕様を示しています。
〇
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

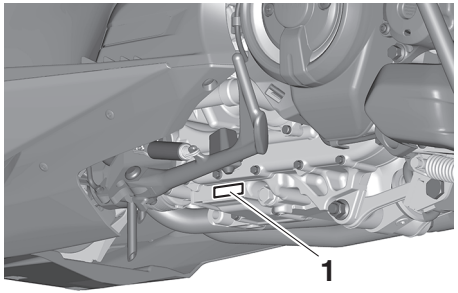


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

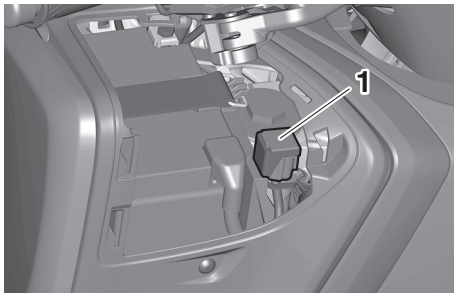


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。
- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。
- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

索引

あ
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 9-3
い
イグニッションサーキット
カットオフシステム 5-24
う
ウインドシールドの取り扱い 9-2
運行において
異常が認められた箇所の点検..... 8-17
え
ABS 警告灯 5-3
エアクリーナーエレメントの交換..... 8-8
ABS 5-16
エンジンオイル 8-4
エンジン警告灯 5-3
エンジン始動 7-1
エンジンストップスイッチ 5-2
エンジンのかかり具合、
異音の点検..... 8-5
か
加速と減速..... 7-3
カバーの取り外し、取り付け 8-2
環境・住民の方との調和のために..... 1-6
き
キャストホイールの取り扱い 9-2
く
クルーズコントロールシステム 4-1
クルーズコントロールスイッチ 5-2
クルーズコントロール表示灯 5-3
け
警告灯と表示灯 5-3
原動機番号 11-3
こ
故障診断コネクター 11-3
こんなときは.....8-18
さ
サービスツール.....8-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....11-2
サイドスタンド.....5-23
し
シートや各リッドの開閉 3-9
車体各部の給油脂状態の点検.....8-13
車台番号 11-2
車両情報 11-2
車両情報の記録に関して 11-3
車両の電源 OFF 3-7
車両の電源 ON ／
スタータースイッチ.....5-2
車両の特徴 4-1
す
スタンディングハンドル 5-22
スピードメーター.....5-4
スマートキーおよび
メカニカルキーの取り扱い 3-2
スマートキーシステム 3-1
スマートキーシステムの
エマージェンシーモード 8-20
スマートキーシステムの概要.....3-1
スマートキーシステムの作動範囲 3-5
スマートキーシステム表示灯.....5-4
スマートキー操作のしかた.....3-3
スマートキーの電池交換のしかた 3-4
せ
セレクトスイッチ.....5-2
洗車 9-1
た
タイヤ.....8-9
タコメーター 5-4
ち
駐車 7-4
て
DC ジャック 5-23
D-mode （ドライブモード）.....4-3
低速、加速の状態の点検 8-6
点検整備の実施 8-1
と
灯火装置および方向指示灯の点検.... 8-17
盗難警報器（別売アクセサリー）..... 5-16
ドライブベルト 8-12
トラクション
コントロールシステム.....4-3
トラクション
コントロールシステム表示灯 5-3
トランク 5-19
な
ならし運転.....7-1
に
日常点検箇所／点検内容 6-1
日常点検の実施 6-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
ね
燃料 5-18
は
パーキングモード.....3-11

12

ハザードスイッチ 5-2
バックミラー.....5-20
発進 7-2
バッテリー.....8-13
ハンドルスイッチ 5-1
ハンドルロック解除と
車両の電源 ON.....3-6
ハンドルロックのかけかた.....3-8
ひ
ヒューズ交換.....8-14
ふ
フューエルタンクキャップ.....5-17
ブレーキ 7-3
ブレーキ液量の点検 8-11
ブレーキパッドの点検 8-11
ブレーキレバーの遊び、
きき具合の点検.....8-10
ブレーキレバーの握り調整.....5-22
へ
ヘッドライト上向き表示灯.....5-3
ヘッドライト上下切り替え／
パッシングライトスイッチ 5-1
ほ
ホーンスイッチ.....5-2
方向指示器スイッチ 5-1
方向指示器表示灯 5-3
保管のしかた.....9-3
歩行者と他の車のために.....1-5
ま
マルチファンクション
ディスプレイ 5-5
め
メインスタンドロックのかけかた..... 3-9
メニュースイッチ..... 5-2
も
モデルラベル 11-2
り
リヤクッションの調整 5-20
リヤブレーキロックのきき具合.....8-11
リヤブレーキロックレバー 5-16
れ
冷却水..... 8-6

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-101-B3T

PRINTED IN JAPAN
2021.01-0.3×1 CR (J)